

対象校No. 395

注4

学校コード F113310103000

注3

設置年度

令和

4年度

計画の区分： 学部を設置

注1

認可

注2

國學院大學 観光まちづくり学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人國學院大學
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	たまプラーザ事務部 たまプラーザ事務課
職名・氏名	カチョウ ヒロセ ケンイチ 課長 広瀬 健一
電話番号	045-904-7700
(夜間)	045-904-7700
e-mail	soumu_t@kokugakuin.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

観光まちづくり学部

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人國學院大學

(2) 大 学 名 國學院大學

(3) 調査対象大学等の位置

〒225-0003
神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1
(〒150-8440)
(東京都渋谷区東四丁目10番28号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(サナギ ショウゾウ) 佐柳 正三 (平成31年4月8日)		
学 長	(ハリモト マサユキ) 針本 正行 (平成31年4月1日)		
学 部 長	(ニシムラ ユキオ) 西村 幸夫 (令和4年4月1日)		
学科長等	(ウメカワ トモヤ) 梅川 智也 (令和4年4月1日)		副学部長

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 学士(観光まちづくり)	社会学・社会福祉学関係	4年	300人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	1,200人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	300人 (-) [5]	-人 (-) []	300人 (-) [5]	-人 (-) []	300人 (-) [5]	-人 (-) []	-	1.06倍	-	
志願者数	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	2,494 (-) [0]	- (-) []	2,083 (-) [2]	- (-) []	2,137 (-) [6]	- (-) []				
受験者数	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	2,453 (-) [0]	- (-) []	2,032 (-) [1]	- (-) []	2,079 (-) [4]	- (-) []				
合格者数	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	789 (-) [0]	- (-) []	785 (-) [1]	- (-) []	690 (-) [1]	- (-) []				
B 入学者数	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	- (-) []	301 (-) [0]	- (-) []	360 (-) [1]	- (-) []	313 (-) [1]	- (-) []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	1.00	-	1.20	-	1.04	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	301 [0] (0)	－ [－] (－)	359 [1] (1)	－ [－] (－)	315 [1] (2)	－ [－] (－)	R6年度1年生の在学学生には、R5年度通年休学のため原級留置した学生2名を含む
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	293 [0] (0)	－ [－] (－)	358 [1] (6)	－ [－] (－)	
3 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	287 [0] (0)	
4 年次											－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計			－ [－] (－)		－ [－] (－)						－ [－] (－)		

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	人	人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	301 人	4 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	4 人	0 人	他大学入学(2名)、一身上の都合(2名)
令和5年度	649 人	8 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	2 人	0 人	他大学入学(1名)、修学意欲喪失(1名)
			令和5年度	6 人	0 人	修学意欲喪失(1名)、家庭の事情(1名)、他大学入学(1名)、他学部への転部(3名)
令和6年度	960 人	1 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	1 人	0 人	病気療養(1名)
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		13 人		13 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{301} = \boxed{1.32} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{649} = \boxed{1.23} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{960} = \boxed{0.1} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜観光まちづくり学部 観光まちづくり学科＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	単位	教	准	講	助	助	
共通教育科目	神道と文化	1 前										2
	国学院の学び(国学院大学の歴史と未来)	1・2 前	2	2								1
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2 後		2								1
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2 後		2								1
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2 後		2								1
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2 後		2								1
	Japan Studies	2・3 前		2								1
	小計(7科目)	-	2	12	0	0	0	0	0	0	0	7
	基礎日本語	1・2 後		2								1
	英語 I	1 前	2									5
	英語 II	1 後	2									5
	英語 III	2 前	2									5
	英語 IV	2 後	2									5
	ドイツ語 I	1 前		2								2
	ドイツ語 II	1 後		2								2
外国語	フランス語 I	1 前		2								2
	フランス語 II	1 後		2								2
	中国語 I	1 前		2								3
	中国語 II	1 後		2								3
	コリア語 I	1 前		2								1
	コリア語 II	1 後		2								1
	スペイン語 I	1 前		2								1
	スペイン語 II	1 後		2								1
	小計(15科目)	-	8	22	0	0	0	0	0	0	0	20
STEM系科目	コンピュータと情報 I	1・2 前・後	2									2
	コンピュータと情報 II	1・2 後		2								1
	情報科学入門	1・2 前	2									1
	地球環境と人間	1・2 後	2									1
	宇宙物理学入門	1・2 前	2									1
	科学的思考法	1・2 後	2									1
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	4
	法学(日本国憲法)	1・2 前	2									1
	法と社会参加(企業での活動と法)	1・2 後	2									1
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1・2 後	2									1
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2 前	2									1
	小計(4科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	0	4
	比較文化論 I	1・2 後	2									1
	日本の経済	1・2 前	2									1
	経済理論入門	1・2 前	2									1
	経済経営数学入門	1・2 前	2									1
	経済学史入門	1・2 後	2									1
	小計(5科目)	-	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3
専門教育科目	スポーツ実技A	1・2 前	1									2
	スポーツ実技B	1・2 後	1									2
	スポーツ科学論	1・2 後	2									1
	小計(3科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5
	社会学概論	1 前	2				2			1	1	
	まちづくりと観光	1 前	2			1	1				1	
	小計(2科目)	-	4	0	0	1	3	0	1	2	0	
	社会調査法入門	1 前	2			1	1				1	
	統計分析の基礎	1 後	2			1						
	プログラミングと数学基礎	1 後	2				1					
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3 前	2			1						
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3 後	2			1						
	データサイエンス	2・3 後	2				1					
	質的調査法	2・3 後	2								1	
	多変量解析	3 前	2								1	
	地理空間情報分析	3 前	2			1						
	小計(9科目)	-	2	16	0	2	1	2	0	1	2	
演習科目	導入ゼミナール	1 前	2			13	6	1				
	観光まちづくり演習 I (調査手法)	2 前	2			1	3	2			5	1
	観光まちづくり演習 II (地域分析)	2 後	4			15	8	3	1	5		
	観光まちづくり演習 III (構想・提案)	3 前	4			14	8	3	1	5		
	専門ゼミナール	3 通	2			16	9	3	1			
	卒業研究	4 通	4			16	9	3	1			
	基礎ゼミナールA	1 後	2			8	8	1	1			
	基礎ゼミナールB	2 前	2			11	3	3				
	小計(8科目)	-	18	4	0	17	9	3	1	5	1	
展開科目	文化社会学	1 後	2									
	コミュニケーション論	1 後	2			1						
	地域と環境の社会学	2 前	2			1						
	グローバルゼミナール	2 前	2			1						

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	単位	教	准	講	助	助	
共通教育科目	神道と文化	1 前										2
	国学院の学び(国学院大学の歴史と未来)	1・2 前	2	2								1
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2 後		2								1
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2 後		2								1
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2 後		2								1
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2 後		2								1
	Japan Studies	2・3 前		2								1
	小計(7科目)	-	2	12	0	0	0	0	0	0	0	6
	アカデミック・リテラシー I	1・2 後		2								1
	英語 I	1 前	2									5
	英語 II	1 後	2									5
	英語 III	2 前	2									5
	英語 IV	2 後	2									5
	ドイツ語 I	1 前		2								2
	ドイツ語 II	1 後		2								2
外国語	フランス語 I	1 前		2								2
	フランス語 II	1 後		2								2
	中国語 I	1 前		2								3
	中国語 II	1 後		2								3
	コリア語 I	1 前		2								3
	コリア語 II	1 後		2								3
	スペイン語 I	1 前		2								1
	スペイン語 II	1 後		2								1
	小計(15科目)	-	8	22	0	0	0	0	0	0	0	22
STEM系科目	コンピュータと情報 I	1・2 前・後	2									2
	コンピュータと情報 II	1・2 後		2								1
	情報科学入門	1・2 前	2									1
	地球環境と人間	1・2 後	2									1
	宇宙物理学入門	1・2 前	2									1
	科学的思考法	1・2 後	2									1
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	4
	法学(日本国憲法)	1・2 後	2									1
	法と社会参加(企業での活動と法)	1・2 後	2									1
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1・2 前	2									1
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2 前	2									1
	小計(4科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	0	4
	比較文化論 I	2 後	2									1
	日本の経済	1・2 前	2									1
	経済理論入門	1・2 前	2									1
	経済経営数学入門	1・2 前	2									1
	経済学史入門	1・2 後	2									1
	小計(5科目)	-	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3
専門教育科目	スポーツ実技A	1・2 前	1									2
	スポーツ実技B	1・2 後	1									2
	スポーツ科学論	1・2 後	2									1
	小計(3科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5
	社会学概論	1 前	2				2			1	1	
	まちづくりと観光	1 前	2			1	1				1	
	小計(2科目)	-	4	0	0	1	3	0	1	2	0	
	社会調査法入門	1 前	2			1	1				1	
	統計分析の基礎	1 後	2			1						
	プログラミングと数学基礎	1 後	2				1					
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3 前	2			1						
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3 後	2			1						
	データサイエンス	2・3 後	2				1					
	質的調査法	2・3 後	2								1	
	多変量解析	3 後	2								1	
	地理空間情報分析	3 後	2			1						
	小計(9科目)	-	2	16	0	2	1	2	0	1	2	
演習科目	導入ゼミナール	1 前	2			13	6	1				
	観光まちづくり演習 I (調査手法)	2 前	2			1	3	2			5	1
	観光まちづくり演習 II (地域分析)	2 後	4			15	8	3	1	5		
	観光まちづくり演習 III (構想・提案)	3 前	4			14	8	3	1	5		
	専門ゼミナール	3 通	2			16	9	3	1			
	卒業研究	4 通	4			16	9	3	1			
	基礎ゼミナールA	1 後	2			8	8	1	1			
	基礎ゼミナールB	2 前	2			11	3	3				
	小計(8科目)	-	18	4	0	17	9	3	1	5	1	
展開科目	文化社会学	1 後	2									
	コミュニケーション論	1 後	2						1			
	地域と環境の社会学	2 前	2						1			
	グローバルゼミナール	2 前	2			1						

専門 教育 科目	展開科目	基礎Ⅱ類 (資源)	地域資源論	1 後	2		3			1						
		博物館概論	1 後	2	2		1									
		都市建築史	2 前	2	2		1									
		民俗学概論	2 前	2	2		1									
		保全生態学概論	2 前	2	2	2										
		基礎Ⅲ類 (政策・計画)	公共政策概論	1 後	2		1						1			
		地方自治概論	2 前	2	2		1									
		地域デザイン論	2 前	2	2		1									
		国土・都市計画論	2 前	2	2		1									
		都市と地域の交通	2 前	2	2		1									
		基礎Ⅳ類 (観光)	観光学概論	1 後	2		1						1			
		観光マーケティング	1 後	2	2											
		観光政策・計画論	2 前	2	2	2										
		観光事業論	2 前	2	2	1										
		発展Ⅰ類 (社会)	都市とメディアの社会学	2・3 後	2	1										
		ジェンダーの社会学	2・3 後	2										1		
		コミュニティ論	3 前	2	2									1		
		NPOと市民社会	3 前	2	2										1	
		観光社会学	3 前	2	2	1										
		文化人類学	3 後	2	2										1	
		発展Ⅱ類 (資源)	地域遺産論	2・3 後	2	1										
		地域文化創造論	2・3 後	2	1											
		風景計画論	2・3 後	2	1											
		レクリエーション計画論	2・3 後	2	2										1	
		文化行政・文化財行政概論	3 前	2	2	2										
		自然/環境保護行政概論	3 前	2	2										1	
		世界遺産論	3 後	2	2			1								
		発展Ⅲ類 (政策・計画)	行財政概論	2・3 後	2										1	
		まちづくり論	2・3 後	2			1									
		農山漁村論	2・3 後	2											1	
		都市保全論	3 前	2	2				1							
		交通計画	3 前	2	2			1								
		住民参加と合意形成	3・4 前	2	2			1								
		地域減災論	3・4 前	2	2	1										
		リノベーション論	3 後	2	2	1										
		アートと地域振興	3 後	2	2	1		1								
		発展Ⅳ類 (交流・産業)	観光行動論	2・3 後	2										1	
		ホスピタリティ・マネジメント論	2・3 後	2											1	
		地域の観光情報メディア	2・3 後	2	1											
		旅行産業論	2・3 後	2	2											
		宿泊産業論	2・3 後	2	2	1										
		観光地経営論	3 前	2	2	2										
		観光食マネジメント論	3・4 前	2	2	1										
		世界の観光政策	3・4 前	2	2	1										
		観光経済論	3 後	2	2	1										
		田園回帰論	3 後	2	2			1								
	小計(50科目)	-	6	94	0	15	9	1	1	3	10					
	トビックス 科目		経営学概論	1・2 後	2											
			地域ブランディング論	2・3 前	2								1			
			ソーシャル・イノベーション	2・3 後	2								1			
運輸・観光実践論			2・3 後	2								1				
不動産投資論			3・4 前	2								1				
文化芸術政策論			3 後	2								1				
観光危機管理論			3 後	2								1				
観光まちづくりインターンシップ			3 通	2		1	2					1				
小計(8科目)			-	0	16	0	1	2	0	0	1	7				
関連科目		哲学・倫理学	1 前	2									1			
		地理学概論	1 後	2								1				
		地域と都市の経済	1・2 後	2								1				
		神道と環境Ⅰ	2 前	2								1				
		観光心理学	2 後	2								1				
		神社ネットワーク論Ⅰ	2・3 後	2								1				
小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	6						
博物館学 課程科目		生涯学習概論	2 前		2									1		
		博物館資料論	2 前		2		1									
		博物館教育論	2 後		2								1			
		博物館資料保存論	2 後		2								1			
		博物館展示論	3 前		2								1			
		博物館経営論	3 後		2								1			
		博物館情報・メディア論	3 前		2								1			
		博物館実習A	3 後		1		1									
		博物館実習B	4 前		2		1									
		小計(9科目)	-	0	0	17	0	1	0	0	0	6				
合計(132科目)			-	40	210	17	17	9	3	1	6	72				

専門教育科目	展開科目	基礎Ⅱ類 (資源)	地域資源論	1	後	2		3				1		
			博物館概論	1	後	2	2		1					
			都市建築史	2	前	2	2	1						
			民俗学概論	2	前	2	2	1						
			保全生態学概論	2	前	2	2	2						
			基礎Ⅲ類 (政策・計画)	公共政策概論	1	後	2		1				1	
				地方自治概論	2	前	2	2		1				
				地域デザイン論	2	前	2	2		1				
				国土・都市計画論	2	前	2	2	1					
		基礎Ⅳ類 (観光)	都市と地域の交通	2	前	2	2		1					
			観光学概論	1	後	2		1					1	
			観光マーケティング	1	後	2	2	1						
			観光政策・計画論	2	前	2	2	2						
			観光事業論	2	前	2	2	1						
		発展Ⅰ類 (社会)	都市とメディアの社会学	2・3	後	2	2	1						
			ジェンダーの社会学	2・3	後	2	2						1	
			コミュニティ論	3	前	2	2						1	
			NPOと市民社会	3	前	2	2						1	
			観光社会学	3	前	2	2	1						
	文化人類学		3	後	2	2						1		
	発展Ⅱ類 (資源)		地域遺産論	2・3	後	2	2	1						
			地域文化創造論	2・3	後	2	2	1						
			風景計画論	2・3	後	2	2	1						
		レクリエーション計画論	2・3	後	2	2						1		
		文化行政・文化財行政概論	3	前	2	2	2							
	発展Ⅲ類 (政策・計画)	自然/環境保護行政概論	3	後	2	2						1		
		世界遺産論	3	後	2	2		1						
		行財政概論	2・3	後	2	2						1		
		まちづくり論	2・3	後	2	2		1						
		農山漁村論	2・3	後	2	2						1		
		都市保全論	3	前	2	2			1					
		交通計画	3	前	2	2			1					
		住民参加と合意形成	3・4	前	2	2			1					
		地域減災論	3・4	前	2	2	1							
	発展Ⅳ類 (交流・産業)	リノベーション論	3	後	2	2	1					1		
		アートと地域振興	3	後	2	2	1		1					
		観光行動論	2・3	後	2	2						1		
		ホスピタリティ・マネジメント論	2・3	後	2	2						1		
		地域の観光情報メディア	2・3	後	2	2	1							
		旅行産業論	2・3	後	2	2	1							
		宿泊産業論	2・3	後	2	2	1							
		観光地経営論	3	前	2	2	2							
		観光食マネジメント論	3・4	前	2	2	1							
	トビックス科目	世界の観光政策	3・4	前	2	2	1							
		観光経済論	3	後	2	2	1							
		田園回帰論	3	後	2	2		1						
小計(50科目)		-		6	94	0	15	9	1	1	3	10		
関連科目		経営学概論	1・2	後	2	2							1	
		地域ブランディング論	2・3	後	2	2							1	
		ソーシャル・イノベーション	2・3	後	2	2							1	
	運輸・観光実践論	2・3	後	2	2							1		
	不動産投資論	3・4	後	2	2							1		
	文化芸術政策論	3	後	2	2							1		
	観光危機管理論	3	後	2	2							1		
	観光まちづくりインターンシップ	3	通	2	2							1		
	小計(8科目)	-		0	18	0	1	2	0	0	1	7		
博物館学課程科目	哲学・倫理学	1	前	2	2							1		
	地理学概論	1	後	2	2							1		
	地域と都市の経済	2	後	2	2							1		
	神道と環境Ⅰ	2	前	2	2							1		
	観光心理学	2	後	2	2							1		
	神社ネットワーク論Ⅰ	2・3	後	2	2							1		
	小計(6科目)	-		0	12	0	0	0	0	0	0	6		
	生涯学習概論	2	前		2							1		
	博物館資料論	2	前		2		1							
博物館教育論	2	後		2							1			
博物館資料保存論	2	後		2							1			
博物館展示論	3	前		2							1			
博物館経営論	3	後		2							1			
博物館情報・メディア論	3	前		2							1			
博物館実習A	3	後		2		1								
博物館実習B	4	通		1		0								
小計(9科目)	-		0	0	17	0	1	0	0	0	6			
合計(132科目)			-		40	210	17	17	9	3	1	6	73	

卒業要件及び履修方法
○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。
【共通教育科目】(26単位以上) ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
【専門教育科目】(74単位以上) ・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。 ・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「パブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と杉)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバリゼーション論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。
○履修科目の登録上限 各年次の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。

卒業要件及び履修方法
○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。
【共通教育科目】(26単位以上) ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。
【専門教育科目】(74単位以上) ・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。 ・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「パブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と杉)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバリゼーション論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。 ・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。
○履修科目の登録上限 各年次の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		専任教員等の配置							兼任 教員 数
			必 修	選 自	教 授	准 教 授	講 師	助 手	助 手			
共通教育科目群	神道と文化	1 前	2									2
	國學院の学び(國學院大學の歴史と未来)	1-2 前	2	2								1
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1-2 後		2								1
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1-2 後		2								1
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1-2 後		2								1
	日本文化を知る(日本文化論と日本語)	1-2 後		2								1
	Japan Studies	2-3 前		2								1
	小計(7科目)	-		2	12	0	0	0	0	0	0	7
	言語スキル科目群	アカデミック・リテラシーⅠ	1-2 後		2	0	0	0	0	0	0	1
	S T E M系科目	英語Ⅰ	1 前	2	2							
英語Ⅱ		1 後		2								5
英語Ⅲ		2 前	2									5
英語Ⅳ		2 後	2									5
外国語Ⅰ		1 前		2								2
ドイツ語Ⅱ		1 前		2								2
フランス語Ⅰ		1 後		2								2
フランス語Ⅱ		1 後		2								2
中国語Ⅰ		1 前		2								3
中国語Ⅱ		1 後		2								3
コリア語Ⅰ		1 前		2								2
コリア語Ⅱ		1 後		2								2
スペイン語Ⅰ		1 前		2								1
スペイン語Ⅱ		1 後		2								1
小計(15科目)		-		8	22	0	0	0	0	0	0	21
専門基礎科目		コンピュータと情報Ⅰ	1-2 前・後		2							
	コンピュータと情報Ⅱ	1-2 後		2								1
	情報科学入門	1-2 前		2								1
	地球環境と人間	1-2 後		2								1
	宇宙物理学入門	1-2 前		2								1
	科学的思考法	1-2 後		2								1
	小計(6科目)	-		0	12	0	0	0	0	0	0	4
	法学(日本国憲法)	1-2 後		2								1
	法と社会参加(企業での活動と法)	1-2 後		2								1
専門教養科目	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1-2 後		2								1
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1-2 前		2								1
	小計(4科目)	-		0	8	0	0	0	0	0	0	4
	比較文化論Ⅰ	2 後		2								1
	日本の経済	1-2 後		2								1
	経済理論入門	1-2 前		2								1
	経済経営数学入門	1-2 後		2								1
	経済学史入門	1-2 前		2								1
	小計(5科目)	-		0	10	0	0	0	0	0	0	3
	専門導入科目	スポーツ実技A	1-2 前		1							
スポーツ実技B		1-2 後		1								2
スポーツ科学論		1-2 後		2								1
小計(3科目)		-		0	4	0	0	0	0	0	0	5
専門メソッド科目		社会学概論	1 前	2				2			1	1
	まちづくりと観光	1 前				1						
	小計(2科目)	-		4	0	0	1	3	0	1	2	0
	社会調査入門	1 前					1				1	
	統計分析の基礎	1 後		2								
	プログラミングと数学基礎	1 後		2			1					
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2-3 前		2				1				
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2-3 後		2			1					
	データサイエ											

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		専任教員等の配置						実 施 期 間	
			必修	選択 科目 由	自 教 授	准 教 授	講 師	助 手	助 手			
共通教育科目	国学院大学文化(国学院大学の歴史と未来)	1 前	2								2	
	国学院の学び(日本文化の普遍性と固有性)	1-2 後	2								2	
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1-2 後	2								2	
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1-2 後	2								2	
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1-2 後	2								2	
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1-2 後	2								2	
	Japan Studies	2-3 前	2								1	
	小計(7科目)	-	2	12	0	0	0	0	0	0	7	
	言語スキル科目群	基礎日本語	1-2 後	2								1
	英語 I	1 前	2								5	
	英語 II	1 後	2								5	
	英語 III	2 前	2								5	
	英語 IV	2 後	2								5	
	外国語	ドイツ語 I	1 前	2							2	
	ドイツ語 II	1 後	2								2	
フランス語 I	1 前	2								2		
フランス語 II	1 後	2								2		
中国語 I	1 前	2								3		
中国語 II	1 後	2								3		
コリア語 I	1 前	2								1		
コリア語 II	1 後	2								1		
スペイン語 I	1 前	2								1		
スペイン語 II	1 後	2								1		
小計(15科目)	-	8	22	0	0	0	0	0	0	20		
STEM系科目	コンピュータと情報 I	1-2 前	2								2	
	コンピュータと情報 II	1-2 前	2								1	
	情報科学入門	1-2 前	2								1	
	地球環境と人間	1-2 後	2								1	
	宇宙物理学入門	1-2 前	2								1	
	科学的思考法	1-2 後	2								1	
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	4	
	法学(日本国憲法)	1-2 前	2								1	
	法と社会参加(企業での活動と法)	1-2 後	2								1	
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1-2 後	2								1	
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1-2 後	2								1	
	小計(4科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	4	
	専門教養科目	比較文化論 I	2 後	2								1
	日本の経済	1-2 前	2								1	
	経済理論入門	1-2 前	2								1	
経済経営数学入門	1-2 前	2								1		
経済学史入門	1-2 前	2								1		
小計(5科目)	-	0	10	0	0	0	0	0	0	3		
専門教育科目	スポーツ実技A	1-2 前	1								2	
	スポーツ実技B	1-2 後	1								2	
	スポーツ科学論	1-2 後	2								1	
	小計(3科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	5	
	導入科目	社会学概論	1 前	2			2			1	1	
	まちづくりと観光	1 前	2			1			1	1	1	
	小計(2科目)	-	4	0	0	1	3	0	1	2	0	
	メソッド科目	社会調査入門	1 前	2			1					
	統計分析の基礎	1 後	2			1						
	プログラミングと数学基礎	1 後	2			1						
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2-3 前	2			1						
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2-3 後	2			1						
	データサイエンス	2-3 後	2					1				
	質的調査法	2-3 後	2								1	
	多変量解析	3 前	2								1	
地理空間情報分析	3 前	2					1					
小計												

トピックス	経営学概論	1・2	後	2							1
ビ	地域ブランディング論	2・3	前	2							1
ッ	ソーシャル・イノベーション	2・3	後	2							1
ク	運輸・観光実証論	2・3	後	2							1
ス	不動産投資論	3・4	前	2							1
科	文化芸術政策論	3	後	2							1
目	観光危機管理論	3	後	2							1
	観光まちづくりインターンシップ	3	通	2	0	1	2	0	0	1	1
	小計(8科目)	-	-	0	16	0	1	2	0	0	7
関	哲学・倫理学	1	前	2							1
連	地理学概論	1	後	2							1
科	地域と都市の経済	2	後	2							1
目	神道と環境Ⅰ	2	前	2							1
	観光心理学	2	後	2							1
	神社ネットワーク論Ⅰ	2・3	後	2							1
	小計(6科目)	-	-	0	12	0	0	0	0	0	6
博	生産学習概論	2	前	2							1
物	博物館資料論	2	前	2		1					
館	博物館教育論	2	後	2							1
学	博物館資料保存論	2	後	2							1
課	博物館展示論	3	前	2							1
程	博物館経営論	3	後	2							1
科	博物館情報・メディア論	3	前	2							1
目	博物館実習A	3	後	2		1					
	博物館実習B	4	通	2		1					
	小計(9科目)	-	-	0	0	17	0	1	0	0	6
	合計(132科目)	-	-	40	210	17	17	9	3	1	73

○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。

【共通教育科目】(26単位以上)
 ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。
 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
 ・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。

【専門教育科目】(74単位以上)
 ・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。
 ・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「パブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と形)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバル化セッション」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。

○履修科目の登録上限
 各年度の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。

トピックス	経営学概論	1・2	後	2							1
ビ	地域ブランディング論	2・3	前	2							1
ッ	ソーシャル・イノベーション	2・3	後	2							1
ク	運輸・観光実証論	2・3	後	2							1
ス	不動産投資論	3・4	前	2							1
科	文化芸術政策論	3	後	2							1
目	観光危機管理論	3	後	2							1
	観光まちづくりインターンシップ	3	通	2	0	1	2	0	0	1	7
	小計(8科目)	-	-	0	16	0	1	2	0	0	7
関	哲学・倫理学	1	前	2							1
連	地理学概論	1	後	2							1
科	地域と都市の経済	2	後	2							1
目	神道と環境Ⅰ	2	前	2							1
	観光心理学	2	後	2							1
	神社ネットワーク論Ⅰ	2・3	後	2							1
	小計(6科目)	-	-	0	12	0	0	0	0	0	6
博	生産学習概論	2	前	2							1
物	博物館資料論	2	前	2					1		
館	博物館教育論	2	後	2							1
学	博物館資料保存論	2	後	2							1
課	博物館展示論	3	前	2							1
程	博物館経営論	3	後	2							1
科	博物館情報・メディア論	3	前	2							1
目	博物館実習A	3	後	2		1					
	博物館実習B	4	通	2		1					
	小計(9科目)	-	-	0	0	17	0	1	0	0	6
	合計(132科目)	-	-	40	210	17	17	9	3	1	72

○以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。

【共通教育科目】(26単位以上)
 ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。
 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。
 ・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。

【専門教育科目】(74単位以上)
 ・導入科目として、「社会学概論」「まちづくりと観光」を必修科目とする。
 ・メソッド科目においては、「社会調査法入門」を必修科目とし、「統計分析の基礎」「プログラミングと数学基礎」「パブリックデザイン(地域と公共空間)」「プロダクトデザイン(地域と形)」「データサイエンス」「質的調査法」「多変量解析」「地理空間情報分析」の8科目16単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・演習科目においては、「導入ゼミナール」「観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目とし、「基礎ゼミナールA」と「基礎ゼミナールB」の2科目4単位から1科目2単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅰ類(社会)においては、「文化社会学」「コミュニケーション論」「地域と環境の社会学」「グローバル化セッション」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅱ類(資源)においては、「地域資源論」を必修科目とし、「博物館概論」「都市建築史」「民俗学概論」「保全生態学概論」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅲ類(政策・計画)においては、「公共政策概論」を必修科目とし、「地方自治概論」「地域デザイン論」「国土・都市計画論」「都市と地域の交通」の4科目8単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目基礎Ⅳ類(交流・産業)においては、「観光学概論」を必修科目とし、「観光マーケティング」「観光政策・計画論」「観光事業論」の3科目6単位から2科目4単位以上を選択必修とする。
 ・展開科目全体においては、必修科目と選択必修科目を含めて、基礎から26単位以上、発展から12単位以上を修得することとし、合計44単位以上を修得することとする。

○履修科目の登録上限
 各年度の履修科目の登録の上限は、1年次:42単位、2年次:42単位、3年次:42単位、4年次:48単位とする。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】
- (1) ①②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・ 科目供出している文学部の開講学年に合わせて、「比較文化論Ⅰ」の開講年度を「1・2年」から「2年」に変更。
- ・ 教育効果を考慮した結果、「経済理論入門」の開講時期を「1年後」から「1年前」に変更。
- ・ 教育効果を考慮した結果、「経済学史入門」の開講時期を「1年後」から「1年前」に変更。
- ・ 科目供出している経済学部のカリキュラムに合わせて1年次開講「経済理論入門」の修得を履修の条件とするため、「地域と都市の経済」の開講年度を「1年後」から「2年後」に変更。
- ・ 「博物館実習A」について、文部科学省「博物館実習ガイドライン」に合わせて、科目単位数を「1単位」から「2単位」に変更。
- ・ 「博物館実習B」について、文部科学省「博物館実習ガイドライン」に合わせて、科目単位数を「2単位」から「1単位」に変更し、開講時期を「4年前」から「4年通」に変更。
- ・ コンピュータの知識や数学的思考の修得を促進するため、共通教育科目の選択必修の条件として、「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」
- ・ 「基礎ゼミナールA」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。
- ・ 「基礎ゼミナールB」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。

【令和5年度】

- ・ 共通教育科目の言語スキル科目群の「基礎日本語」の科目名について、現行の全学的なカリキュラムに合わせて「アカデミック・リテラシーⅠ」に変更。
- ・ 「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」について、当初の想定以上に履修希望者が多かったため、新任の兼任教員を1名追加して増コマした。これにより、兼任・兼担教員数の小計を「20」から「21」に、兼任・兼担教員数の合計を「72」から「73」にそれぞれ変更。
- ・ 「法学(日本憲法)」について、兼担教員が派遣研究期間(国内)にあたるため担当教員を新任の兼任教員に変更し、後任教員の本務都合により開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「観光まちづくり演習Ⅰ」「観光まちづくり演習Ⅱ」「観光まちづくり演習Ⅲ」について、授業の教育効果および助手の負担軽減のため助手を「5」から「6」に変更し、助手の人数の小計が「5」から「6」へ変更。
- ・ 「基礎ゼミナールA」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。
- ・ 「基礎ゼミナールB」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。

【令和6年度】

- ・ 「日本文化を知る(儒教文化研究)」について、担当教員変更により兼任・兼担教員数の小計を「7」から「6」に、兼任・兼担教員数の合計を「73」から「72」にそれぞれ変更。
- ・ 「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」について、当初の想定以上に履修希望者が多かったため、新任の兼任教員を1名追加して増コマした。これにより、兼任・兼担教員数を「2」から「3」に、兼任・兼担教員数の小計を「72」から「73」にそれぞれ変更。
- ・ 「政治と社会参加(社会と社会参加NPO活動)」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「後期」から「前期」に変更。
- ・ 「経済理論入門」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「経済学史入門」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「多変量解析」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「地理空間情報分析」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「自然/環境保護行政概論」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「地域ブランディング論」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「不動産投資論」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 「基礎ゼミナールA」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3」から「4」に変更。
- ・ 「基礎ゼミナールB」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3」から「5」に変更。

- (注) ・ 2(1) ①② 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	106 科目	9 科目	132 科目	17 科目	106 科目	9 科目	132 科目	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{132} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内		容		備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借用面積】 4763.07㎡ 【借用期間】 令和2年3月1日～ 令和31年3月31日			
	校 舎 敷 地	53,876㎡	0㎡	0㎡	53,876㎡				
	運動場用地	58,622㎡	0㎡	0㎡	58,622㎡				
	小 計	112,498㎡	0㎡	0㎡	112,498㎡				
	そ の 他	44,947㎡	0㎡	0㎡	44,947㎡				
	合 計	157,445㎡	0㎡	0㎡	157,445㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借用面積】 4763.07㎡ 【借用期間】 令和2年3月1日～ 令和31年3月31日			
		116,772㎡ (116,772㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	116,772㎡ (116,772㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室 129室 130室	演 習 室 47室	実験実習室 20室 (補助職員 9人)	情報処理学習施設 9室 (補助職員 0人)	語学学習施設 1室 (補助職員 0人)	大学全体		
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		観光まちづくり学部 観光まちづくり学科			30 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	「図書」「学術雑誌 (電子ジャーナル含 む)」「視聴覚資料」 については、学部単位 での特定不能なため、 大学全体の数	
	観光まちづくり 学部	1,646,818 [332,695] 1,643,842 -[332,231]- 1,637,460 -[332,270]- 1,628,973 -[331,691]-	10,721 [2,120] 10,726 -[2,126]- 10,822 -[2,137]- 10,828 -[2,148]-	75,180 [72,925] 58,319 -[56,256]- 77,052 -[74,607]- 35,087 -[33,883]-	454,870 455,319 455,744 457,205	30 20	0		
	計	1,628,815 [332,752] -[1,614,873] -[332,397]- -[1,601,127] -[332,404]- -[1,603,863] -[332,347]-	(10,638 [2,115]) -[10,571] -[2,115]- (10,511 -[2,116]-) (10,671 -[2,134]-)	(65,611 [63,643]) -[44,364] -[42,719]- (51,063 -[49,397]-) (33,868 -[32,700]-)	(454,236) -[454,161] -[454,087] -[455,574]	(30) (20)	(0)		
	計	1,646,818 [332,695] 1,643,842 -[332,231]- 1,637,460 -[332,270]- 1,628,973 -[331,691]-	10,721 [2,120] 10,726 -[2,126]- 10,822 -[2,137]- 10,828 -[2,148]-	75,180 [72,925] 58,319 -[56,256]- 77,052 -[74,607]- 35,087 -[33,883]-	454,870 455,319 455,744 457,205	30 20	0		
	計	1,628,815 [332,752] -[1,614,873] -[332,397]- -[1,601,127] -[332,404]- -[1,603,863] -[332,347]-	(10,638 [2,115]) -[10,571] -[2,115]- (10,511 -[2,116]-) (10,671 -[2,134]-)	(65,611 [63,643]) -[44,364] -[42,719]- (51,063 -[49,397]-) (33,868 -[32,700]-)	(454,236) -[454,161] -[454,087] -[455,574]	(30) (20)	(0)		
(6)図 書 館		面 積 7,387 ㎡		閱 覧 座 席 数 842 864		収 納 可 能 冊 数 2,150,000		大学全体	
(7)体 育 館		面 積 6,211㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 テ ニ ス コ ー ト 13 面 ト レ ー ニ ン グ ル ー ム 4 室					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	開設前年度及び開設年度は実績に基づいた数値である。(5) 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運搬用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等	255千円 350千円	350千円	図書購入費	15,041千円 15,000千円	14,975千円 22,500千円	30,000千円	
		共 同 研 究 費 等	0千円 650千円	650千円	設備購入費	297,408千円 346,379千円 150,000千円	7,752千円 5,000千円	5,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,300千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、補助金収入、寄付金収入、資金運用収入を充当						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA/C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	國學院大學										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	3
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
文学部	4	685	-	2,745	-	1.14	1.10	-	昭和23	-	※令和4年度より入学定員減(255人⇒250人)。令和3年度届出済。			
日本文学科	4	250	-	1005	学士(文学)	1.14	1.10	-	平成8	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
中国文学科	4	60	-	240	学士(文学)	1.02	0.99	-	平成8	同上				
外国語文化学科	4	120	-	480	学士(文学)	1.16	1.11	-	平成8	同上				
史学科	4	190	-	760	学士(文学)	1.14	1.11	-	昭和23	同上				
哲学科	4	65	-	260	学士(文学)	1.23	1.18	-	昭和23	同上				
法学部	4	500	-	2,000	-	1.07	1.05	-	昭和38	-	※令和2年度より入学定員増(210人⇒255人)。令和元年度届出済。 ※令和2年度より学生募集停止(150人⇒0人)。令和元年度届出済。 ※令和2年度より入学定員増(150人⇒255人)。令和元年度届出済。			
法律学科	4	500	-	2,000	学士(法学)	1.07	1.05	-	昭和38	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
経済学部	4	510	-	2,040	-	1.12	1.09	-	昭和41	-				
経済学科	4	255	-	1,020	学士(経済学)	1.13	1.09	-	昭和41	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
経済ネットワーク学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	-	-	平成8	同上				
経営学科	4	255	-	1,020	学士(経営学)	1.12	1.08	-	平成17	同上				
神道文化学部	4	180	-	720	-	1.13	1.09	-	平成14	-	※令和2年度より入学定員増(210人⇒255人)。令和元年度届出済。 ※令和2年度より学生募集停止(150人⇒0人)。令和元年度届出済。 ※令和2年度より入学定員増(150人⇒255人)。令和元年度届出済。			
神道文化学科(昼間主)	4	120	-	480	学士(文学)	1.19	1.15	-	平成14	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
神道文化学科(夜間主)	4	60	-	240	学士(文学)	1.02	0.97	-	平成14	同上				
人間開発学部	4	330	-	1,320	-	1.10	1.08	-	平成21	-				
初等教育学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.11	1.09	-	平成21	神奈川県横浜市長瀬区新石川三丁目22番地1				
健康体育学科	4	130	-	520	学士(体育学)	1.13	1.11	-	平成21	同上				
子ども支援学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.04	1.03	-	平成25	同上	神奈川県横浜市長瀬区新石川三丁目22番地1			
観光まちづくり学部	4	300	-	900	-	1.06	-	-	令和4	-				
観光まちづくり学科	4	300	-	900	学士(観光まちづくり)	1.06	-	-	令和4	-				
大学全体	4	2,505	-	9,725	-	-	-	-	-	-				

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

– 16 –

専任・兼任の別	職名	氏名(名前) <就任(予定)年> 年月 保有学位等	担当授業科目名
専任	准教授	河 野 睦 (39) <令和4年4月> 博士(学術情報学)	社会学概論※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域・提案) 観光まちづくり演習Ⅲ (模範・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA コミュニケーション論
		藤岡 康子 (41) <令和4年4月> 博士(学術)	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域・提案) 観光まちづくり演習Ⅲ (模範・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 世界遺産学
専任	准教授	松本 真実 (40) <令和4年4月> 博士(学術)	社会学概論※ 社会学専攻入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域・提案) 観光まちづくり演習Ⅲ (模範・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学
		児玉 (大樹) 千雄 (32) <令和4年4月> 博士(工学)	地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ (地域・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専任	講師	仲野 周一 (38) <令和4年4月> 修士(情報科学)※	プログラミングと数値基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ (地域・提案) 観光まちづくり演習Ⅲ (模範・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB
		横 恵且 (41) <令和4年4月> 博士(工学)	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域・提案) 観光まちづくり演習Ⅲ (模範・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興
専任	講師	清 智美 (34) <令和4年4月> 修士(学術情報学)※	社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ (地域・提案) 観光まちづくり演習Ⅲ (模範・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
		石井 研士 (67) <令和4年4月> 博士(芸術学)	日本文化を知る (儒礼文化研究)
兼任	教授	岩瀬 由佳 (57) <令和4年4月> 博士(言語文化)	比較文化論Ⅰ
		植原 吉樹 (62) <令和4年4月> 博士(医学)	日本文化を知る (武運の特性と国際化) スポーツ実践A
兼任	教授	尾道 祐幸 (58) <令和4年4月> 修士(経済学)	経済学入門 経済学入門
		金杉 武司 (49) <令和4年4月> 博士(学術)	哲学・倫理学
兼任	教授	近藤 良彦 (59) <令和4年4月> 理学博士	コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
		坂本 正徳 (57) <令和4年4月> 博士(学術)	コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任	教授	中島 祥子 (56) <令和4年4月> 社会学修士	WFOと市民社会

氏(名) ＜敬称(字・号)＞ 保有学位	職名	兼任・兼任の別
河 寛彦 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(学術情報学)	担当授業科目名	
専 任教授	社会学概論※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA コミュニケーション論	
専 任教授	藤岡 麻理子 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	
専 任教授	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 市民意識論	
専 准教授	松本 貴文 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	
専 准教授	社会学概論※ 社会学調査入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学	
専 講師	児玉(大澤) 千絵 (32) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	
専 講師	地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB	
専 講師	中野 潤一 (41) ＜令和4年4月＞ 修士(情報理工学) ※	
専 講師	プログラミングと数値基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB	
専 講師	橋 惠志 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	
専 講師	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興策	
専 助教	潘 夢雯 (34) ＜令和4年4月＞ 博士(学術情報学)	
専 助教	社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学	
兼任 教授	石井 研士 (67) ＜令和4年4月＞ 博士(経済学)	
兼任 教授	日本文化を知る(儒教文化研究)	
兼任 教授	斎藤 由佳 (50) ＜令和4年4月＞ 博士(言語文化学)	
兼任 教授	比較文化論Ⅰ	
兼任 教授	植原 吉昭 (62) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	
兼任 教授	日本文化を知る(武選の特性と国際化) スポーツ実証法	
兼任 教授	尾近 裕幸 (50) ＜令和4年4月＞ 修士(経済学)	
兼任 教授	経済学入門 経済学入門Ⅱ	
兼任 教授	金村 武司 (45) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	
兼任 教授	哲学・倫理学	
兼任 教授	近藤 良彦 (50) ＜令和4年4月＞ 理学博士	
兼任 教授	コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門	
兼任 教授	坂本 正徳 (57) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	
兼任 教授	コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門	
兼任 教授	中島 祥子 (54) ＜令和4年4月＞ 社会学修士	
兼任 教授	NP0と市民社会	

専任・兼任、兼任の別	職名	氏 名
		（年 齢） ＜就任（予定）年＞月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	河 野 景祐 (41) ＜令和4年4月＞ 博士（学術情報学）
		社会学部総論※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析） 観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案） 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA コミュニケーション論
専	准教授	藤岡 麻理子 (42) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析） 観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案） 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 都市環境論
専	准教授	松本 貴文 (41) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		社会学部総論※ 社会学部法Ⅰ演習Ⅱ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析） 観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案） 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 地域と環境の社会学
専	講師	児玉（大澤） 千絵 (33) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		地学空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法） 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析） 観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案） 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専	講師	仲野 薫一 (39) ＜令和4年4月＞ 修士（情報理工学）※
		プログラミングと数式基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法） 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析） 観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案） 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB
専	講師	横 應五 (42) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析） 観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案） 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 都市保全論 アートと地域振興※
専	助教	清 夢斐 (35) ＜令和4年4月＞ 博士（学術情報学）
		社会学部総論※ 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析） 観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案） 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
兼任	教授	石井 研士 (68) ＜令和4年4月＞ 博士（経済学）
		日本文化を知る（『礼文文化研究』）
兼任	教授	岩瀬 由佳 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（言語文化学）
		比較文化論Ⅰ
兼任	教授	緒間 吉朗 (63) ＜令和4年4月＞ 博士（医学）
		日本文化を知る（『武蔵の特性と国際化』） スポーツ実技A
兼任	教授	尾近 裕幸 (59) ＜令和4年4月＞ 修士（経済学）
		経済理論入門 経済学入門Ⅰ
兼任	教授	金杉 武司 (50) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		哲学・物理学
兼任	教授	近藤 良泰 (60) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任	教授	坂本 正徳 (58) ＜令和4年4月＞ 博士（医学）
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任	教授	中庭 祥子 (55) ＜令和4年4月＞ 社会学部 WFOと市民社会

任・兼任、兼任の別	職名	氏 名	氏 名
		(年 齢)	(年 齢)
		<就任 年 月 年 月> 保有学位等	<就任 年 月 年 月> 保有学位等
		担当授業科目名	
専 准教授		河 野 景祐 (42) <令和4年4月> 博士 (学術情報学)	河 野 景祐 (42) <令和4年4月> 博士 (学術情報学)
		社会学概論※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA コミュニケーション論	社会学概論※ 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA コミュニケーション論
専 准教授		藤岡 麻理子 (43) <令和4年4月> 博士 (学術)	藤岡 麻理子 (43) <令和4年4月> 博士 (学術)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 環境学概論	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 環境学概論
専 准教授		松本 貴文 (40) <令和4年4月> 博士 (学術)	松本 貴文 (40) <令和4年4月> 博士 (学術)
		社会学概論※ 社会学講座法入門 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 社会学と環境の社会学	社会学概論※ 社会学講座法入門 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 社会学と環境の社会学
専 講師		児玉 (大澤) 千絵 (34) <令和4年4月> 博士 (工学)	児玉 (大澤) 千絵 (34) <令和4年4月> 博士 (工学)
		地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB	地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB
専 講師		仲野 薫一 (40) <令和4年4月> 修士 (情報理工学) ※	仲野 薫一 (40) <令和4年4月> 修士 (情報理工学) ※
		プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB	プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB
専 講師		橋 達五 (43) <令和4年4月> 博士 (工学)	橋 達五 (43) <令和4年4月> 博士 (工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興実	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興実
専 助教		清 夢夢 (36) <令和4年4月> 博士 (学術情報学)	清 夢夢 (36) <令和4年4月> 博士 (学術情報学)
		社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学	社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学
兼任 教授		岩瀬 由佳 (59) <令和4年4月> 博士 (言語文化学)	岩瀬 由佳 (59) <令和4年4月> 博士 (言語文化学)
		比較文化論Ⅰ	比較文化論Ⅰ
兼任 教授		植岡 吉晴 (64) <令和4年4月> 博士 (学術)	植岡 吉晴 (64) <令和4年4月> 博士 (学術)
		日本文化を知る (武漢の特性と国際化) スポーツ実技A	日本文化を知る (武漢の特性と国際化) スポーツ実技A
兼任 教授		阪近 裕幸 (60) <令和4年4月> 修士 (経済学)	阪近 裕幸 (60) <令和4年4月> 修士 (経済学)
		経済理論入門 経済学入門Ⅰ	経済理論入門 経済学入門Ⅰ
兼任 教授		金杉 武司 (51) <令和4年4月> 博士 (学術)	金杉 武司 (51) <令和4年4月> 博士 (学術)
		哲学・倫理学	哲学・倫理学
兼任 教授		近藤 良彦 (61) <令和4年4月> 理学博士	近藤 良彦 (61) <令和4年4月> 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門	コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任 教授		坂本 正徳 (59) <令和4年4月> 博士 (理学)	坂本 正徳 (59) <令和4年4月> 博士 (理学)
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門	コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任 教授		中野 修子 (58) <令和4年4月> 社会学修士	中野 修子 (58) <令和4年4月> 社会学修士
		WFOと民社社会	WFOと民社社会

兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中泉 真樹 (54) <令和4年4月> 経済学士	日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	中倉根 (市川) 珠子 (55) <令和4年4月> 法学修士	法と社会参加 (企業での活動と法)
兼任	教授	長又 高夫 (57) <令和4年4月> 博士 (法学)	日本文化を知る (日本文化の普遍性と固有性)
兼任	教授	林 貴一郎 (48) <令和4年4月> 博士 (体育科学)	スポーツ科学論
兼任	教授	福岡 英明 (52) <令和4年4月> 博士 (法学)	法学 (日本国憲法)
兼任	准教授	伊藤 英之 (39) <令和4年4月> 修士 (教育学)	スポーツ実践B
兼任	准教授	稲垣 浩 (45) <令和5年4月> 博士 (政治学)	行政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (42) <令和4年4月> 博士 (神道学)	国學院の学び (国學院大学の歴史と未来) 日本文化を知る (日本文化論と日本神話)
兼任	准教授	穴戸 節太郎 (52) <令和4年4月> 博士 (文学)	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	千野 謙太郎 (44) <令和4年4月> 博士 (学術)	スポーツ実践B
兼任	准教授	備前 嘉文 (43) <令和4年4月> 博士 (スポーツ科学)	スポーツ実践A
兼任	講師	羅 芝賢 (37) <令和4年4月> 博士 (法学)	行政と市民生活 (デジタル時代の行政と社会)
兼任	助教	大迫 (山中) 晴香 (36) <令和4年4月> 博士 (宗教学)	神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任	助教	柏木 亨介 (45) <令和4年4月> 博士 (文学)	神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任	講師	安倍 幸 (61) <令和5年4月> 博士 (政治学)	文化人類学
兼任	講師	荒木 臣紀 (54) <令和5年4月> 修士 (芸術学)	博物館資料保存論
兼任	講師	石原 久子 (57) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	市村 真実 (40) <令和5年4月> 修士 (文学) ※	博物館教育論
兼任	講師	岩佐 直紀 (59) <令和5年4月> 博士 (農学)	生態学管理論
兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中泉 真樹 (55) <令和4年4月> 経済学士	日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	長又 高夫 (57) <令和4年4月> 博士 (法学)	日本文化を知る (日本文化の普遍性と固有性)
兼任	教授	林 貴一郎 (49) <令和4年4月> 博士 (体育科学)	スポーツ科学論
兼任	准教授	伊藤 英之 (40) <令和4年4月> 修士 (教育学)	スポーツ実践B
兼任	教授	稲垣 浩 (46) <令和5年4月> 博士 (政治学)	行政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (43) <令和4年4月> 博士 (神道学)	国學院の学び (国學院大学の歴史と未来) 日本文化を知る (日本文化論と日本神話)
兼任	教授	穴戸 節太郎 (53) <令和4年4月> 博士 (文学)	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	千野 謙太郎 (45) <令和4年4月> 博士 (学術)	スポーツ実践B
兼任	准教授	備前 嘉文 (45) <令和4年4月> 博士 (スポーツ科学)	スポーツ実践A
兼任	准教授	羅 芝賢 (38) <令和4年4月> 博士 (法学)	行政と市民生活 (デジタル時代の行政と社会)
兼任	准教授	大迫 (山中) 晴香 (37) <令和4年4月> 博士 (宗教学)	神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任	助教	柏木 亨介 (46) <令和4年4月> 博士 (文学)	神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任	講師	安倍 幸 (60) <令和5年4月> 博士 (政治学)	文化人類学
兼任	講師	荒木 臣紀 (55) <令和5年4月> 修士 (芸術学)	博物館資料保存論
兼任	講師	石原 久子 (58) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	市村 真実 (41) <令和5年4月> 修士 (文学) ※	博物館教育論
兼任	講師	岩佐 直紀 (60) <令和5年4月> 博士 (農学)	生態学管理論
兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中泉 真樹 (56) <令和4年4月> 経済学士	日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	長又 高夫 (58) <令和4年4月> 博士 (法学)	日本文化を知る (日本文化の普遍性と固有性)
兼任	教授	林 貴一郎 (50) <令和4年4月> 博士 (体育科学)	スポーツ科学論
兼任	准教授	伊藤 英之 (41) <令和4年4月> 修士 (教育学)	スポーツ実践B
兼任	教授	稲垣 浩 (47) <令和5年4月> 博士 (政治学)	行政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (44) <令和4年4月> 博士 (神道学)	国學院の学び (国學院大学の歴史と未来) 日本文化を知る (日本文化論と日本神話)
兼任	教授	穴戸 節太郎 (54) <令和4年4月> 博士 (文学)	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	千野 謙太郎 (46) <令和4年4月> 博士 (学術)	スポーツ実践B
兼任	教授	備前 嘉文 (46) <令和4年4月> 博士 (スポーツ科学)	スポーツ実践A
兼任	准教授	羅 芝賢 (39) <令和4年4月> 博士 (法学)	行政と市民生活 (デジタル時代の行政と社会)
兼任	准教授	大迫 (山中) 晴香 (38) <令和4年4月> 博士 (宗教学)	神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ 日本文化を知る (総文化研究)
兼任	准教授	柏木 亨介 (47) <令和4年4月> 博士 (文学)	神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任	講師	安倍 幸 (61) <令和5年4月> 博士 (政治学)	文化人類学
兼任	講師	荒木 臣紀 (56) <令和5年4月> 修士 (芸術学)	博物館資料保存論
兼任	講師	石原 久子 (59) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	市村 真実 (42) <令和5年4月> 修士 (文学) ※	博物館教育論
兼任	講師	岩佐 直紀 (61) <令和5年4月> 博士 (農学)	生態学管理論
兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中泉 真樹 (57) <令和4年4月> 経済学士	日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	長又 高夫 (59) <令和4年4月> 博士 (法学)	日本文化を知る (日本文化の普遍性と固有性)
兼任	教授	林 貴一郎 (51) <令和4年4月> 博士 (体育科学)	スポーツ科学論
兼任	准教授	伊藤 英之 (42) <令和4年4月> 修士 (教育学)	スポーツ実践B
兼任	教授	稲垣 浩 (48) <令和5年4月> 博士 (政治学)	行政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (45) <令和4年4月> 博士 (神道学)	国學院の学び (国學院大学の歴史と未来) 日本文化を知る (日本文化論と日本神話)
兼任	教授	穴戸 節太郎 (55) <令和4年4月> 博士 (文学)	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	千野 謙太郎 (47) <令和4年4月> 博士 (学術)	スポーツ実践B
兼任	准教授	備前 嘉文 (47) <令和4年4月> 博士 (スポーツ科学)	スポーツ実践A
兼任	准教授	羅 芝賢 (40) <令和4年4月> 博士 (法学)	行政と市民生活 (デジタル時代の行政と社会)
兼任	准教授	大迫 (山中) 晴香 (39) <令和4年4月> 博士 (宗教学)	神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ 日本文化を知る (総文化研究)
兼任	准教授	柏木 亨介 (48) <令和4年4月> 博士 (文学)	神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任	講師	安倍 幸 (62) <令和5年4月> 博士 (農学)	文化人類学
兼任	講師	荒木 臣紀 (57) <令和5年4月> 修士 (芸術学)	博物館資料保存論
兼任	講師	石原 久子 (60) <令和5年4月> 文学修士※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	市村 真実 (43) <令和5年4月> 修士 (文学) ※	博物館教育論
兼任	講師	岩佐 直紀 (62) <令和5年4月> 博士 (農学)	生態学管理論

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大森 尚子 (57) ＜令和5年4月＞ 文学修士※	
		英語Ⅲ 英語Ⅳ	
兼任	講師	岡田 誠 (48) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）	
		基礎日本語	
兼任	講師	岡部 友彦 (45) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※	
		ソーシャル・イノベーション	
兼任	講師	奥田 麻衣 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	
		地球環境と人間	
兼任	講師	小野 雅子 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	片山 美由紀 (58) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	
		観光心理学	
兼任	講師	角屋 明彦 (65) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (58) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	
		観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）	
兼任	講師	楳川 純子 (58) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）	
兼任	講師	木下 令子 (66) ＜令和4年4月＞ 文学士	
		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	
兼任	講師	後藤 知美 (38) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	
		博物館展示論	
兼任	講師	後藤 靖子 (65) ＜令和5年4月＞ 法学士	
		運輸・観光実証論	
兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (35) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	
		レクリエーション計画論	
兼任	講師	斎藤 弘崇 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐藤 千明 (64) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐野 敬子 (51) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	
		ジェンダーの社会学	
兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	John Pak (65) ＜令和4年4月＞ Master of Arts（米国）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	杉本 興運 (35) ＜令和4年4月＞ 博士（観光科学）	
		地理学概論	

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大森 尚子 (57) ＜令和5年4月＞ 文学修士※	
		英語Ⅲ 英語Ⅳ	
兼任	講師	岡田 誠 (48) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）	
		基礎日本語	
兼任	講師	岡部 友彦 (44) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※	
		ソーシャル・イノベーション	
兼任	講師	奥田 麻衣 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	
		地球環境と人間	
兼任	講師	小野 雅子 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	片山 美由紀 (57) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	
		観光心理学	
兼任	講師	角屋 明彦 (65) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (57) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	
		観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）	
兼任	講師	楳川 純子 (58) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）	
兼任	講師	木下 令子 (66) ＜令和4年4月＞ 文学士	
		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	
兼任	講師	後藤 知美 (37) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	
		博物館展示論	
兼任	講師	後藤 靖子 (64) ＜令和5年4月＞ 法学士	
		運輸・観光実証論	
兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (34) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	
		レクリエーション計画論	
兼任	講師	斎藤 弘崇 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐藤 千明 (64) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐野 敬子 (50) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	
		ジェンダーの社会学	
兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	John Pak (65) ＜令和4年4月＞ Master of Arts（米国）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	杉本 興運 (35) ＜令和4年4月＞ 博士（観光科学）	
		地理学概論	

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大森 尚子 (57) ＜令和5年4月＞ 文学修士※	
		英語Ⅲ 英語Ⅳ	
兼任	講師	岡田 誠 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）	
		アカデミック・リテラシーⅠ	
兼任	講師	岡部 友彦 (45) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※	
		ソーシャル・イノベーション	
兼任	講師	岡本 さだこ (68) ＜令和5年4月＞ 文学修士	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	奥田 麻衣 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	
		地球環境と人間	
兼任	講師	片山 美由紀 (58) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	
		観光心理学	
兼任	講師	角屋 明彦 (66) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (58) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	
		観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）	
兼任	講師	楳川 純子 (59) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）	
兼任	講師	木下 令子 (67) ＜令和4年4月＞ 文学士	
		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	
兼任	講師	後藤 知美 (38) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	
		博物館展示論	
兼任	講師	後藤 靖子 (65) ＜令和5年4月＞ 法学士	
		運輸・観光実証論	
兼任	講師	小泉 幸吉 (77) ＜令和5年4月＞ 修士（法学）	
		法学（日本国憲法）	
兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (35) ＜令和4年4月＞ 博士（農学）	
		レクリエーション計画論	
兼任	講師	斎藤 弘崇 (42) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐藤 千明 (65) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐野 敬子 (51) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	
		ジェンダーの社会学	
兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (49) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	John Pak (66) ＜令和4年4月＞ Master of Arts（米国）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	杉本 興運 (36) ＜令和4年4月＞ 博士（観光科学）	
		地理学概論	

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大森 尚子 (58) ＜令和5年4月＞ 文学修士※	
		英語Ⅲ 英語Ⅳ	
兼任	講師	岡田 誠 (50) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）	
		アカデミック・リテラシーⅠ	
兼任	講師	岡部 友彦 (46) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※	
		ソーシャル・イノベーション	
兼任	講師	岡本 さだこ (67) ＜令和5年4月＞ 文学修士	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	奥田 麻衣 (46) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	
		地球環境と人間	
兼任	講師	片山 美由紀 (59) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	
		観光心理学	
兼任	講師	角屋 明彦 (67) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (59) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	
		観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）	
兼任	講師	楳川 純子 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）	
兼任	講師	木下 令子 (68) ＜令和4年4月＞ 文学士	
		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	
兼任	講師	後藤 知美 (39) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	
		博物館展示論	
兼任	講師	後藤 靖子 (66) ＜令和5年4月＞ 法学士	
		運輸・観光実証論	
兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (36) ＜令和4年4月＞ 博士（農学）	
		レクリエーション計画論	
兼任	講師	斎藤 弘崇 (43) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐藤 千明 (66) ＜令和4年4月＞ 文学修士	
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	
兼任	講師	佐野 敬子 (52) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	
		ジェンダーの社会学	
兼任	講師	桑田 竜太郎 (24) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	
		法学（日本国憲法）	
兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	John Pak (67) ＜令和4年4月＞ Master of Arts（米国）	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	杉本 興運 (37) ＜令和4年4月＞ 博士（観光科学）	
		地理学概論	

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師	農山漁村論	園田 直也 (47) <令和5年4月> 博士(農学)	農山漁村論
		鈴木 卓治 (58) <令和5年4月> 博士(学術)	
兼任 講師	博物館情報・メディア論	高久 健二 (54) <令和4年4月> 文学博士(韓国)	博物館情報・メディア論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	高橋 佳江 (62) <令和5年4月> 文学修士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		高松 正人 (65) <令和5年4月> 教育学士	
兼任 講師	観光危機管理論	田中 ゆり (55) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)	観光危機管理論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	丹治 勝子 (52) <令和5年4月> 修士(社会学)※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		丹野(江部) 春香 (36) <令和5年4月> 修士(教育学)	
兼任 講師	生涯学習概論	坪原 純二 (59) <令和5年4月> 博士(工学) Ph.D.(オランダ)	生涯学習概論
兼任 講師	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	津山 拓也 (59) <令和4年4月> 文学修士	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
		戸井 久 (53) <令和4年4月> 博士(中国学)	
兼任 講師	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	土手 昭伸 (49) <令和4年4月> 博士(理学)	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師	科学的思考法	中村 大 (56) <令和6年4月> 修士(歴史学)	科学的思考法
兼任 講師	多変量解析	橋本 俊哉 (60) <令和5年4月> 博士(工学)	多変量解析
		花田 弘介 (37) <令和4年4月> 法政博士(専門職)	
兼任 講師	観光行動論	原 功 (47) <令和5年4月> 修士(言語学)※	観光行動論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	半田 昌之 (69) <令和6年4月> 法学士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		深谷 信介 (59) <令和5年4月> 修士(工学)	
兼任 講師	地域ブランディング論	福井 一喜 (34) <令和4年4月> 博士(理学)	地域ブランディング論
兼任 講師	地域と都市の経済	寶喜 みどり (63) <令和4年4月> 文学修士	地域と都市の経済

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師	農山漁村論	園田 直也 (46) <令和5年4月> 博士(農学)	農山漁村論
		鈴木 卓治 (56) <令和5年4月> 博士(学術)	
兼任 講師	博物館情報・メディア論	高久 健二 (54) <令和4年4月> 文学博士(韓国)	博物館情報・メディア論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	高橋 佳江 (61) <令和5年4月> 文学修士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		高松 正人 (63) <令和5年4月> 教育学士	
兼任 講師	観光危機管理論	田中 ゆり (55) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)	観光危機管理論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	丹治 勝子 (52) <令和5年4月> 修士(社会学)※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		丹野(江部) 春香 (35) <令和5年4月> 修士(教育学)	
兼任 講師	生涯学習概論	坪原 純二 (57) <令和5年4月> 博士(工学) Ph.D.(オランダ)	生涯学習概論
兼任 講師	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	津山 拓也 (59) <令和4年4月> 文学修士	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
		戸井 久 (53) <令和4年4月> 博士(中国学)	
兼任 講師	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	土手 昭伸 (49) <令和4年4月> 博士(理学)	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師	科学的思考法	中村 大 (54) <令和6年4月> 修士(歴史学)	科学的思考法
兼任 講師	多変量解析	橋本 俊哉 (59) <令和5年4月> 博士(工学)	多変量解析
		花田 弘介 (37) <令和4年4月> 法政博士(専門職)	
兼任 講師	観光行動論	原 功 (46) <令和5年4月> 修士(言語学)※	観光行動論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	半田 昌之 (67) <令和6年4月> 法学士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		深谷 信介 (58) <令和5年4月> 修士(工学)	
兼任 講師	地域ブランディング論	福井 一喜 (34) <令和5年4月> 博士(理学)	地域ブランディング論
兼任 講師	地域と都市の経済	寶喜 みどり (63) <令和4年4月> 文学修士	地域と都市の経済

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師	農山漁村論	園田 直也 (47) <令和5年4月> 博士(農学)	農山漁村論
		鈴木 卓治 (57) <令和5年4月> 博士(学術)	
兼任 講師	博物館情報・メディア論	高久 健二 (55) <令和4年4月> 文学博士(韓国)	博物館情報・メディア論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	高橋 佳江 (62) <令和5年4月> 文学修士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		高松 正人 (64) <令和5年4月> 教育学士	
兼任 講師	観光危機管理論	田中 ゆり (56) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)	観光危機管理論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	丹治 勝子 (53) <令和5年4月> 修士(社会学)※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		丹野(江部) 春香 (36) <令和5年4月> 修士(教育学)	
兼任 講師	生涯学習概論	坪原 純二 (58) <令和5年4月> 博士(工学) Ph.D.(オランダ)	生涯学習概論
兼任 講師	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	津山 拓也 (60) <令和4年4月> 文学修士	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
		戸井 久 (54) <令和4年4月> 博士(中国学)	
兼任 講師	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	土手 昭伸 (50) <令和4年4月> 博士(理学)	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師	科学的思考法	中村 大 (55) <令和5年4月> 修士(歴史学)	科学的思考法
兼任 講師	多変量解析	橋本 俊哉 (60) <令和5年4月> 博士(工学)	多変量解析
		花田 弘介 (38) <令和4年4月> 法政博士(専門職)	
兼任 講師	観光行動論	原 功 (48) <令和5年4月> 修士(言語学)※	観光行動論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	半田 昌之 (68) <令和6年4月> 法学士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		深谷 信介 (59) <令和5年4月> 修士(工学)	
兼任 講師	地域ブランディング論	福井 一喜 (35) <令和5年4月> 博士(理学)	地域ブランディング論
兼任 講師	地域と都市の経済	寶喜 みどり (64) <令和4年4月> 文学修士	地域と都市の経済

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師	農山漁村論	園田 直也 (48) <令和5年4月> 博士(農学)	農山漁村論
		鈴木 卓治 (58) <令和5年4月> 博士(学術)	
兼任 講師	博物館情報・メディア論	高久 健二 (56) <令和4年4月> 文学博士(韓国)	博物館情報・メディア論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	高橋 佳江 (63) <令和5年4月> 文学修士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		高松 正人 (65) <令和5年4月> 教育学士	
兼任 講師	観光危機管理論	田中 ゆり (56) <令和5年4月> 修士(文学)※ Master of Arts(ドイツ)	観光危機管理論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	丹治 勝子 (54) <令和5年4月> 修士(社会学)※	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		丹野(江部) 春香 (36) <令和5年4月> 修士(教育学)	
兼任 講師	生涯学習概論	坪原 純二 (59) <令和5年4月> 博士(工学) Ph.D.(オランダ)	生涯学習概論
兼任 講師	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	津山 拓也 (61) <令和4年4月> 文学修士	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
		戸井 久 (55) <令和4年4月> 博士(中国学)	
兼任 講師	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	土手 昭伸 (51) <令和4年4月> 博士(理学)	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任 講師	科学的思考法	中村 大 (56) <令和5年4月> 修士(歴史学)	科学的思考法
兼任 講師	多変量解析	橋本 俊哉 (61) <令和5年4月> 博士(工学)	多変量解析
		花田 弘介 (38) <令和4年4月> 法政博士(専門職)	
兼任 講師	観光行動論	原 功 (48) <令和5年4月> 修士(言語学)※	観光行動論
兼任 講師	英語Ⅲ 英語Ⅳ	半田 昌之 (69) <令和6年4月> 法学士	英語Ⅲ 英語Ⅳ
		深谷 信介 (60) <令和5年4月> 修士(工学)	
兼任 講師	地域ブランディング論	福井 一喜 (36) <令和5年4月> 博士(理学)	地域ブランディング論
兼任 講師	地域と都市の経済	寶喜 みどり (65) <令和4年4月> 文学修士	地域と都市の経済

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	本間 由香利 (56) <令和4年4月> 修士(言語学)※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	牧野 修也 (55) <令和4年4月> 博士(社会学)	
		質的調査法	
兼任	講師	増山 肇一 (66) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米國)	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	水野(坂垣) 由香里 (47) <令和4年4月> 博士(経営学)	
		経営学概論	
兼任	講師	吉本 光宏 (65) <令和6年4月> 工学修士	
		文化芸術政策論	
兼任	講師	リム・ベクチェン (51) <令和4年4月> 博士(学術)	
		Japan Studies	
兼任	講師	渡邊 綱男 (68) <令和6年4月> 博士(農学)	
		自然/環境保護行政概論	
兼任	講師	和良地 克茂 (66) <令和6年4月> 修士(工学)	
		不動産投資論	

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	本間 由香利 (56) <就任(予定)年月> 修士(言語学)※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	牧野 修也 (54) <令和4年4月> 博士(社会学)	
		質的調査法	
兼任	講師	増山 肇一 (66) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米國)	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	水野(坂垣) 由香里 (47) <令和4年4月> 博士(経営学)	
		経営学概論	
兼任	講師	吉本 光宏 (63) <令和6年4月> 工学修士	
		文化芸術政策論	
兼任	講師	リム・ベクチェン (50) <令和4年4月> 博士(学術)	
		Japan Studies	
兼任	講師	渡邊 綱男 (66) <令和6年4月> 博士(農学)	
		自然/環境保護行政概論	
兼任	講師	和良地 克茂 (66) <令和6年4月> 修士(工学)	
		不動産投資論	

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	本間 由香利 (57) <就任(予定)年月> 修士(言語学)※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	牧野 修也 (55) <令和4年4月> 博士(社会学)	
		質的調査法	
兼任	講師	増山 肇一 (67) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米國)	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	水野(坂垣) 由香里 (48) <令和4年4月> 博士(経営学)	
		経営学概論	
兼任	講師	吉本 光宏 (64) <令和6年4月> 工学修士	
		文化芸術政策論	
兼任	講師	リム・ベクチェン (51) <令和4年4月> 博士(学術)	
		Japan Studies	
兼任	講師	渡邊 綱男 (67) <令和6年4月> 博士(農学)	
		自然/環境保護行政概論	
兼任	講師	和良地 克茂 (67) <令和4年4月> 修士(工学)	
		不動産投資論	

兼任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	本間 由香利 (58) <就任(予定)年月> 修士(言語学)※	
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	
兼任	講師	牧野 修也 (56) <令和4年4月> 博士(社会学)	
		質的調査法	
兼任	講師	増山 肇一 (68) <令和4年4月> Ph. D. Anthropology (米國)	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ	
兼任	講師	水野(坂垣) 由香里 (49) <令和4年4月> 博士(経営学)	
		経営学概論	
兼任	講師	吉本 光宏 (65) <令和6年4月> 工学修士	
		文化芸術政策論	
兼任	講師	リム・ベクチェン (52) <令和6年4月> 博士(学術)	
		Japan Studies	
兼任	講師	渡邊 綱男 (68) <令和6年4月> 博士(農学)	
		自然/環境保護行政概論	
兼任	講師	和良地 克茂 (68) <令和6年4月> 修士(工学)	
		不動産投資論	

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
- ・ その上で、各年度については、**履修時又は届出時から重要となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(専)、実(専)、兼担、兼任の順に記入してください。
- ・ 不兼任年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

- 専任の潘夢斐助教が、学位「博士(学際情報学)」を取得。
取得年月日：令和3年6月11日
授与機関名：東京大学大学院学際情報学府
学位記番号：博士学情第168号
論文名：Locating and Localizing the Art Networks: A Sociological Examination of the Roles of Place in Art Networks in Ueno, Tokyo in the Meiji Period
(アートネットワークと場所 一明治期東京上野におけるアートネットワークに関する社会学的研究)
- 兼任の稲垣浩の職位について、令和4年度に准教授から教授に昇格。
- 兼任の羅芝賢の職位について、令和4年度に専任講師から准教授に昇格。
- 兼任の中曽根玲子教授が派遣研究期間(国内)にあたるため、「法と社会参加(企業での活動と法)」については、花田弘介兼任講師に担当教員変更。
- 授業科目「比較文化論Ⅰ」の開講年度の変更により、兼任の岩瀬由佳教授の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。
- 授業科目「地域と都市の経済」の開講年度の変更により、兼任の福井一喜講師の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。

【令和5年度】

- 兼任の矢野節太郎の職位について、令和5年度に准教授から教授に昇格。
- 兼任の福岡英明教授が派遣研究期間(国内)にあたるため、「法学(日本国憲法)」については、小林宇宙兼任講師に担当教員変更。
- 小野雅子兼任講師の辞任により、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」については、岡本さだこ兼任講師に担当教員変更。
- 丹野(江部)春香兼任講師の就任辞任により、「生涯学習概論」については、岩松真紀兼任講師に担当教員変更。
- 岡田誠兼任講師の授業科目について、「基礎日本語」から「アカデミック・リテラシーⅠ」に科目名称変更。
- 授業科目「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、履修者増加による増コマのため、富所明秀兼任講師を追加。

【令和6年度】

- 兼任の備前嘉文の職位について、令和6年度に准教授から教授に昇格。
- 兼任の大道(山中)晴香の職位について、令和6年度に助教から准教授に昇格。
- 兼任の柏木亨介の職位について、令和6年度に助教から准教授に昇格。
- 授業科目「日本文化を知る(儀礼文化研究)」については、兼任の石井研二教授の健康上の理由により、兼任の大道(山中)晴香准教授に担当教員変更。
- 授業科目「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」について、兼任の矢野節太郎教授の他の担当科目の兼ね合いから猪刈由紀兼任講師に担当教員変更。
- 授業科目「地域ブランディング論」について、深谷信介兼任講師の本務校の都合により、東徹兼任講師に担当教員変更。
- 小林宇宙兼任講師の辞任により、「法学(日本国憲法)」については、柴田竜太郎兼任講師に担当教員変更。
- 授業科目「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、履修者増加による増コマのため、崔英善兼任講師を追加。

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
17	9
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
17	9	3	1	30	6	17	9	3	1	30	6
(16)	(9)	(3)	(1)	(29)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
17	9	3	1	30	6	17	9	3	1	30	6
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70	1	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{30} = \boxed{3.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{6}{6} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
-	-	-	-				-						
-	-	-	-				-						
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
-	-	-	-				-						
-	-	-	-				-						
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{30} = 0 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) ー⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
-	-	-				-				
-	-	-								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

[illegible]

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）（６）」と記載してください。

【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 卒業要件単位数 以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。 【共通教育科目】（26単位以上） ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 【専門教育科目】（74単位以上） ※内容省略	① 卒業要件単位数において、共通教育科目のSTEM系科目群（「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」）から1科目2単位以上を選択必修とすることを共通教育科目の単位修得条件に追加する。 共通教育科目は、全学共通で人間力・社会人を育み学ぶために設けられた科目で、Science、Technology、Engineering及びMathematicsの頭文字を付したSTEM系科目群は、今後ますます技術革新が進むであろう社会にあって、エビデンスに基づいて適切な情報を選択し、既成の概念を論理的かつ批判的に検証し、又は革新的な提案をするために、文系、理系を問わずに必要な知識と能力を修得する科目群である。 複数の学問分野の融合によって地域を理解し、地域の実情に即した課題解決型の教育を目指す観光まちづくり学部においては、複眼的にものを見る力を養ううえでも、STEM系科目群は専門教育を補完し学修を深める重要な科目群となることから、単位修得条件に追加し変更する。 変更後の卒業要件は以下のとおり。 ▼卒業要件 以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。 【共通教育科目】（26単位以上） ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ロシア語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「ロシア語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。 【専門教育科目】（74単位以上） ※内容省略
② 施設・設備 a 学部長室（20.90㎡） b 会議室（20.90㎡）	② 観光まちづくり学部の管理運営機能を強化するために学部長室（20.90㎡）を増設した。 打ち合わせの増加に対応するために会議室（20.90㎡）を増設した。

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

観光まちづくり学部では、教員の資質の維持向上のため、以下3つの委員会を設置している。

1. 観光まちづくり学部教務委員会・FD委員会

・観光まちづくり学部教務委員会・FD委員会は、学部教員9名から構成されている。なお、教務委員会・FD委員会は、「教員の資質の維持向上の方策」だけでなく、教務全般を取扱う委員会である。

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

・観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会は、正副学部長を含む学部教員と外部委員、および本学事務課員から構成されている。（別紙3「観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程」）

3. 各種演習科目運営委員会

・観光まちづくり学部の演習科目「導入ゼミナール」「基礎ゼミナールA・B」「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「専門ゼミナール」準備と実施のため、以下の通り、科目別の運営委員会が組織されている。

<演習運営委員会>

- ・導入ゼミナール運営委員会
- ・基礎ゼミナール運営委員会
- ・観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ運営委員会
- ・専門ゼミナール運営委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

各委員会の開催状況は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD委員会

・令和5年度、観光まちづくり学部FD委員会は観光まちづくり学部教務委員会と同時に開催され、計18回開催された（別紙4「令和5年度観光まちづくり学部教務委員会開催実績」）。

・令和5年度、学部教務委員会が中心となり、本学部の専門科目を担当する兼任・兼任講師を招き、学部の方針を説明する「兼任・兼任講師お打合せ会」を開催した（別紙5「令和5年度兼任・兼任講師お打合せ会開催実績」）

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

・令和4年度は3月に実施したが、年度の報告をする目的の上で、6月開催に変更するため、令和5年度は実施せず、令和6年6月に実施する予定である。

3. 各種演習科目運営委員会

・「導入ゼミナール」「基礎ゼミナールA・B」「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「専門ゼミナール」の準備と実施のため、科目ごとの運営委員会が組織されている。

<演習運営委員会>

- ・導入ゼミナール運営委員会（教員2名）：月1回程度
- ・基礎ゼミナール運営委員会（教員4名）：月1-2回程度
- ・観光まちづくり演習Ⅰ運営委員会（参加教員2名）：月1-2回程度
- ・観光まちづくり演習Ⅱ運営委員会（参加教員5名）：月1-2回程度
- ・観光まちづくり演習Ⅲ運営委員会（参加教員5名）：月1-2回程度
- ・専門ゼミナール運営委員会（参加教員5名）：月1-2回程度

c 委員会の審議事項等

各委員会の審議事項等は、以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD委員会

- (1) 教員の教育能力向上のために行う研修・研究会等の計画と実施運営
- (2) 授業方法の改善・向上に関する情報の収集と提供
- (3) 教育施設・設備の改善に関する検討と提案
- (4) シラバスの点検及び改善策の立案
- (5) 教材の作成支援に関する検討と提案
- (6) 授業・教育状況に関する学生および教員への定期的アンケートの実施
- (7) 学生による授業評価の実施
- (8) 授業改善学生会議の設置と運営助成
- (9) 授業観察・検討会の企画および実施運営
- (10) FD活動に関する成果の発信と公開
- (11) FD活動に関する教育開発推進機構との連携

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

- (1) 学部運営の点検・評価
- (2) 学部運営の改善に関する提言
- (3) 地域マネジメント研究センターの運営に関する助言
- (4) 地域、並びに外部機関との連携推進に関する助言・提言
（別紙3「観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程」）

3. 各種演習科目運営委員会

- (1) 授業方法に関する検討と提案
- (2) 教育施設・設備に関する検討と提案
- (3) 教授法や教材等に関する検討と提案

② 実施状況

a 実施内容

令和5年度の実施内容は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD事業（観光まちづくり学部FD委員会主催）
令和5年度、観光まちづくり学部ではFD事業として、本学部の核となる「観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ」に関する教員の資質の維持向上のために「観光まちづくり演習」の開講に向けたスキルアップ事業を実施した。具体的には、下記5つの事業を実施した。（別紙6「令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」事業報告書」）

<実施した事業>

- ①担当教員の相互理解に向けた研究会（6回）
- ②地域から外部講師を招いての研修会（1回）：「地域の側からみた大学との連携」
講師：飛騨高山大学連携センター 六角裕治センター長、佐原アカデミア 椎名喜事務局長
- ③先進地域の視察（1回）：9月30日～10月1日に日光市エクスカッションを実施
- ④他大学から講師を招いての研修会（1回）：「観光まちづくり演習の充実に向けたスキルアップ」
講師：奈良女子大学大学院人文科学系人文社会学領域教授 寺岡伸悟先生
- ⑤アンケート調査の実施（2回）：②および④に関するアンケート

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

前述の通り、令和5年度は実施せず、令和6年6月に実施する予定である。

3. 各種演習科目運営委員会

前述の通り、科目ごとの運営委員会を開催し、授業方法、教育施設・設備、教授法や教材等に関する検討を重ねた。

b 実施方法

令和5年度の実施方法は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD事業（観光まちづくり学部FD委員会主催）

前述の通り、下記5つのFD事業を実施した。①担当教員の相互理解に向けた研究会に関しては、本学たまプラーザキャンパス若木21（本学部が拠点とする建物）において実施した。②④⑤は、外部から講師を招聘し、オンライン開催にて実施した。③は、栃木県日光市において実施した。（別紙6「令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」事業報告書」）

<実施した事業>

- ①担当教員の相互理解に向けた研究会（6回）：本学たまプラーザキャンパス若木21で実施
- ②地域から外部講師を招いての研修会（1回）：オンラインで実施
- ③先進地域の視察（1回）：日光市において実施
- ④他大学から講師を招いての研修会（1回）：オンラインで実施
- ⑤アンケート調査の実施（2回）：オンラインで実施

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

前述の通り、令和5年度は実施せず、令和6年6月に実施する予定である。

3. 各種演習科目運営委員会

前述の通り、本学たまプラーザキャンパス若木21で科目ごとの運営委員会を定期的に開催した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和5年度の開催状況は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD事業

前述の通り、下記5つのFD事業を実施した。開催回数と時期、参加人数は、以下の通り。（別紙6「令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」事業報告書」）

<実施した事業>

- ①担当教員の相互理解に向けた研究会：6回開催…5月17日（30人）、5月31日（28人）、6月14日（29人）、7月12日（30人）、1月17日（30人）、2月21日（30人）
- ②地域から外部講師を招いての研修会：1回開催…1月24日（23人）
- ③先進地域の視察：9月30日～10月1日に日光市エクスカッションを実施（26人）
- ④他大学から講師を招いての研修会：1回開催…7月26日（25人）
- ⑤アンケート調査の実施：2回実施…7月26日～8月8日（11人）、1月24日～2月13日（18人）

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

前述の通り、令和5年度は実施せず、令和6年6月に実施する予定である。

3. 各種演習科目運営委員会

前述の通り、本学たまプラーザキャンパス若木21で科目ごとの運営委員会を定期的に開催した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

以上の実施結果は、観光まちづくり学部教員に共有されており、各教員が実施内容を踏まえて令和6年度の授業内容や授業運営に反映させている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

本学では、各学期末に授業評価アンケートを実施している。観光まちづくり学部の開講科目においても前期末の7月、後期末の1月に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各授業のアンケート結果は、担当教員が学修支援システムK-SMAPYⅡ上で閲覧可能である。また、アンケート結果に対する教員のリプライコメントは、学生がK-SMAPYⅡ上で閲覧可能である。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙7「観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」参照。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和8年4月 公表（予定）

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し専任教職員に配付
・大学ホームページ上に公開予定（令和8年4月）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和4年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けた
・令和11年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける（予定）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

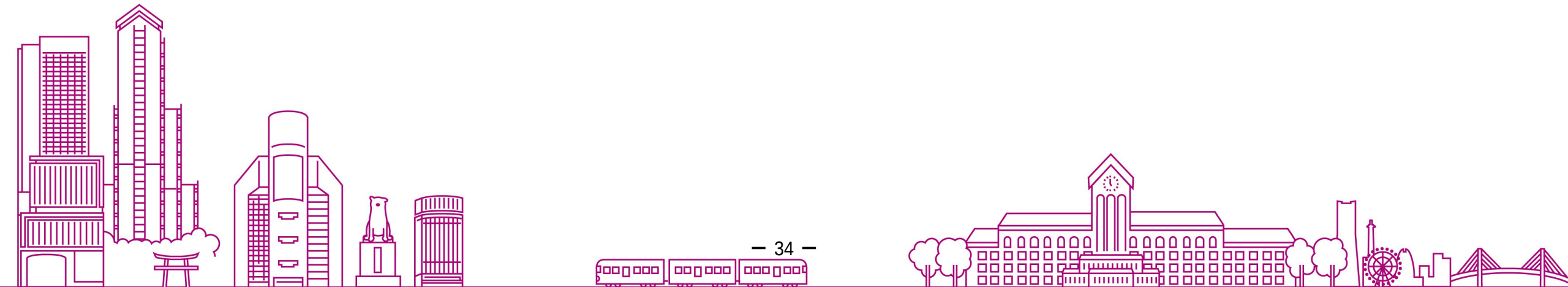
d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

観光まちづくり学部 専門教育科目

履修ガイダンス



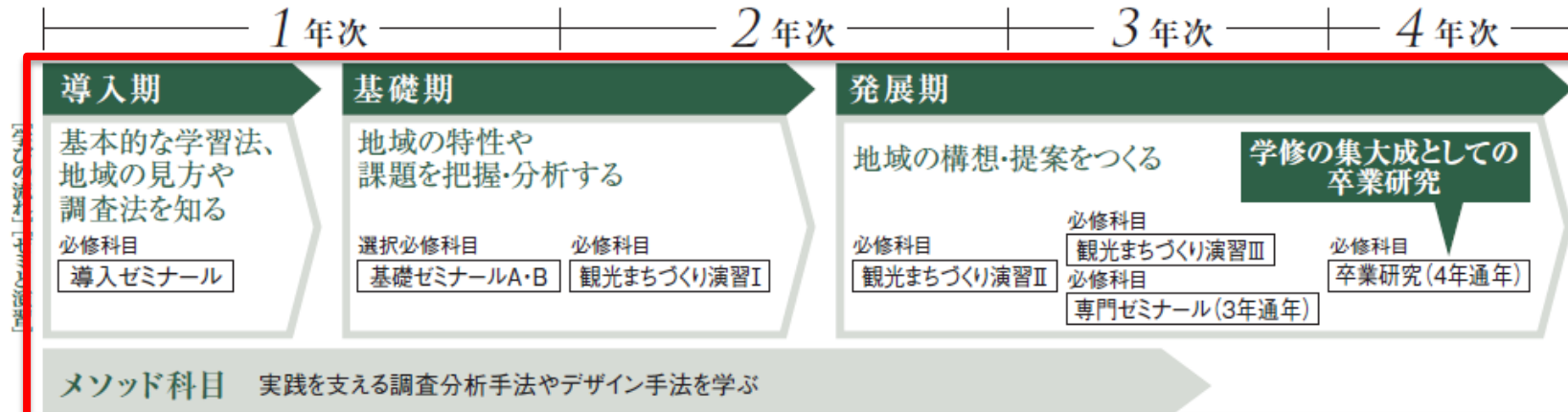
観光まちづくり学部のカリキュラム

観光・交流を基軸に持続可能な地域の形成及び振興に関する方法論を構築するとともに、豊かな教養と学識をもち、観光や交流を通じた活力あふれる地域社会の再生、活性化に貢献できる人材の育成

具体的には、

- 社会、資源、政策・計画、交流・産業、に関する知識・技能
- 地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力

観光まちづくり学部のカリキュラム

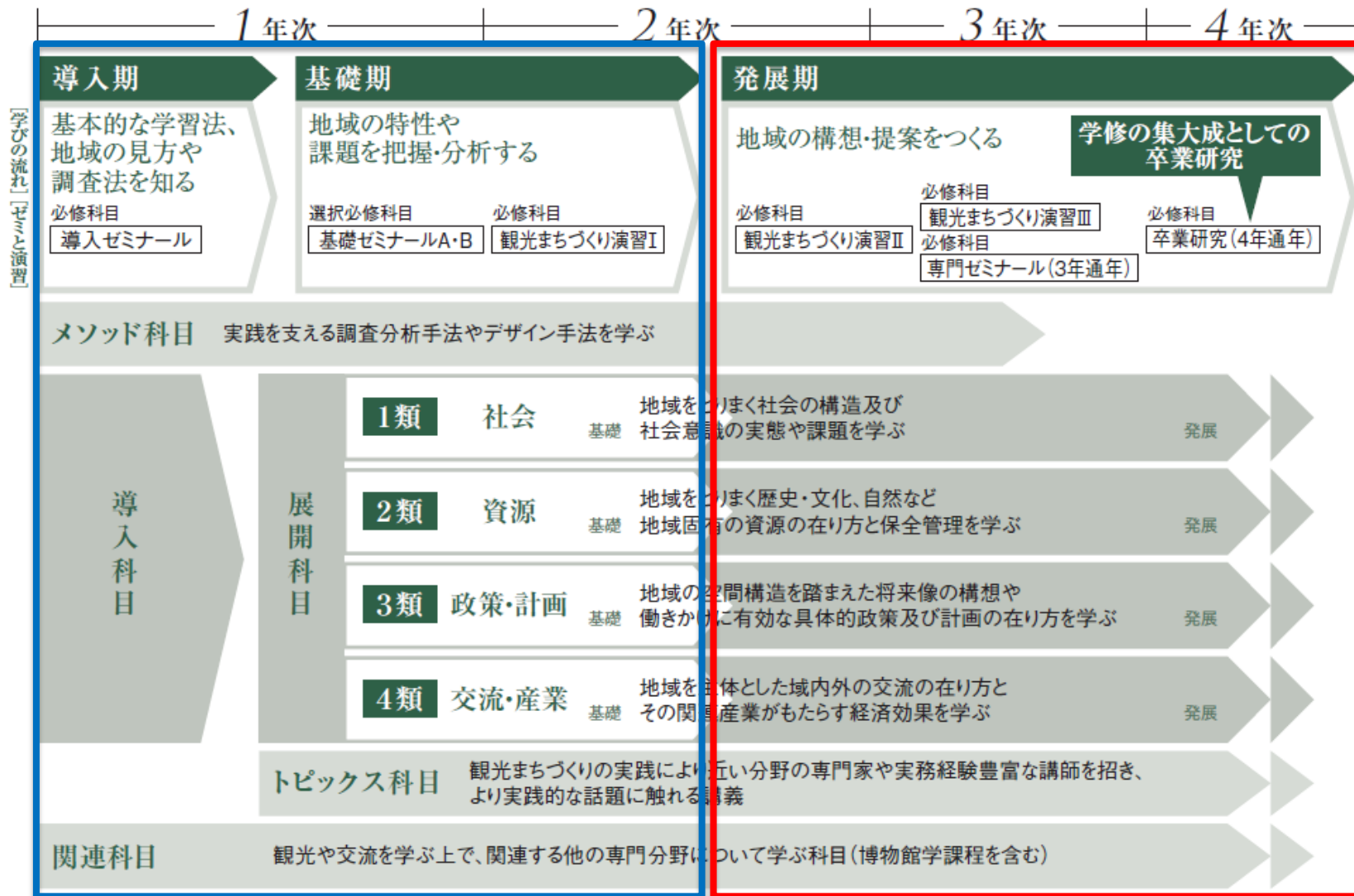


演習科目とメソッド科目で
地域の実情に応じた将来像
を構想し、多くの人々と協
働しつつ、よりよい未来へ
向けての計画や提案を行い、
実装に向けて行動できる意
欲と能力



導入科目から展開科目で
社会、資源、政策・計画、
交流・産業、に関する知
識・技能を身につける

観光まちづくり学部のカリキュラム



導入期・基礎期

多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。

発展期

学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。

科目区分



導入科目

メソッド科目

演習科目

展開科目 基礎／発展

- ・ I 類 (社会)
- ・ II 類 (資源)
- ・ III 類 (政策・計画)
- ・ IV 類 (交流・産業)

トピックス科目

関連科目

科目区分ごとの開講科目を履修要綱P65-66で確認してください

卒業認定・学位授与方針 教育課程の編成・実施方針

卒業認定・学位授与方針（P59）

A 知識・技能

B 思考力・判断力・表現力

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度



これらを満たすために…

教育課程の編成・実施方針（P60）

科目区分とほぼ対応した6項目

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

科目区分		卒業認定・学位授与方針（DP）						
		知識・技能			思考力・判断力・表現力		主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度	
		A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2
導入科目		◎						
メソッド科目				◎		◎		
演習科目	導入期					○	○	
	基礎期	○		○		○	○	
	発展期			○	◎	◎	◎	○
展開科目 基礎	I 類	◎	○					
	II 類	◎	○					
	III 類	◎	◎					
	IV 類	◎	◎					
展開科目 発展	I 類	◎	◎					
	II 類		◎					
	III 類		◎					
	IV 類		◎					
トピックス科目			◎		○	○	○	◎
関連科目		◎						

卒業要件と進級条件

【卒業のために必要な単位数】

本学に4年（8学期）以上在学し、所定の単位を修得すれば卒業と認定し、学士（観光まちづくり）の学位が授与される。ただし、1～4年の各年次に1学期以上在学することが必要である。卒業に要する単位数は下表のとおりである。

共通教育科目	26 単位以上
専門教育科目	74 単位以上
合計	124 単位以上※1

※1 共通教育科目、専門教育科目から上表のとおり単位を修得し、合計 124 単位以上修得すること。

【進級条件】

進級の時期は各年度の初めとする。進級するには、各年次において学期以上在学することが必要である。ただし、**2年次から3年次への進級には、2年次終了までに3学期以上在学し、卒業に要する単位で34単位以上を修得していなければならない。**

カリキュラムの構成と履修方法

科目区分			所要単位数	備考
導入科目		必修	2 科目 4 単位	
メソッド科目		必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
演習		必修	6 科目 18 単位	
		選択必修	1 科目 2 単位	
展開科目	基礎Ⅰ類（社会）	選択必修	2 科目 4 単位	左記の条件を満たした上で、 ・基礎Ⅰ～Ⅳ類で、13 科目 26 単位を修得すること。 ・展開科目全体で 22 科目 44 単位以上を修得すること。
	基礎Ⅱ類（資源）	必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
	基礎Ⅲ類（政策・計画）	必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
	基礎Ⅳ類（交流・産業）	必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
	発展Ⅰ～Ⅳ類	選択必修	6 科目 12 単位	
トピックス科目		選択		
関連科目		選択		
計			74 単位	

卒業に必要な
科目・単位数

必修科目

科目区分	科目名
導入科目	まちづくりと観光、社会学概論
メソッド科目	社会調査法入門
演習科目	導入ゼミナール 観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ 専門ゼミナール、卒業研究
展開科目	地域資源論 公共政策概論 観光学概論

マーカーで塗りつぶす

以上の科目を必ず修得すること

選択必修科目 メソッド科目

開講年次	科目名
1年次	プログラミングと数学基礎 統計分析の基礎
2年次	パブリックデザイン（地域と公共空間） パブリックデザイン（地域と杉） データサイエンス 質的調査法
3年次	多変量解析 地理空間情報分析

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 演習科目

開講年次	科目名
1年次	基礎ゼミナールA
2年次	基礎ゼミナールB

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、1科目2単位以上を修得すること

基礎ゼミナールAとBの履修に関する説明会を6月に開催するので、必ず出席して、指示にしたがって履修を検討すること。

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅰ類

開講年次	科目名
1年次	文化社会学 コミュニケーション論
2年次	地域と環境の社会学 グローバリゼーション論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅱ類

開講年次	科目名
1年次	博物館概論
2年次	都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅲ類

開講年次	科目名
2年次	地方自治概論 国土・都市計画論 地域デザイン論 都市と地域の交通

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅳ類

開講年次	科目名
1年次	観光マーケティング
2年次	観光政策・計画論 観光事業論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

展開科目

さらに…

- 基礎Ⅰ～Ⅳ類より、必修科目、選択必修科目を含め、13科目26単位を修得すること
- 発展Ⅰ～Ⅳ類より、6科目12単位以上を修得すること
- 展開科目全体で22科目44単位以上を修得すること

マーカで大きく丸で囲む

履修登録や成績発表の際に、修得単位数を必ず確認して、
卒業要件を満たすように学修を進めること

履修条件

共通教育科目「経済理論入門」（1年・前期）



専門教育科目「地域と都市の経済」（2年・後期）

「地域と都市の経済」は、「経済理論入門」の単位修得が履修条件となる。

マーカーで塗りつぶす

履修が望ましい科目

専門教育科目

「プログラミングと数学基礎」（1年・後期）



「データサイエンス」（2年・後期）

「データサイエンス」は、「プログラミングと数学基礎」を事前に履修することが望まれる科目です。

履修要綱に書き込む

おさらい

- 履修要綱をよく確認する。
- シラバスをよく読む。授業内容、成績評価や授業実施形態を確認する。
- 必修科目の登録を確認する。
- 履修条件や履修が望ましい科目を確認する。

「経済理論入門」と「地域の都市の経済」

「プログラミングと数学基礎」と「データサイエンス」

- 自らの興味や関心、目指すべき進路を考えて、履修科目を選択する。

悩んだときは…

履修相談会に参加する

観光まちづくり学部の教員が相談に乗ります

<履修相談会>

1回目 2023年 4月 4日(火) 13:00～15:00

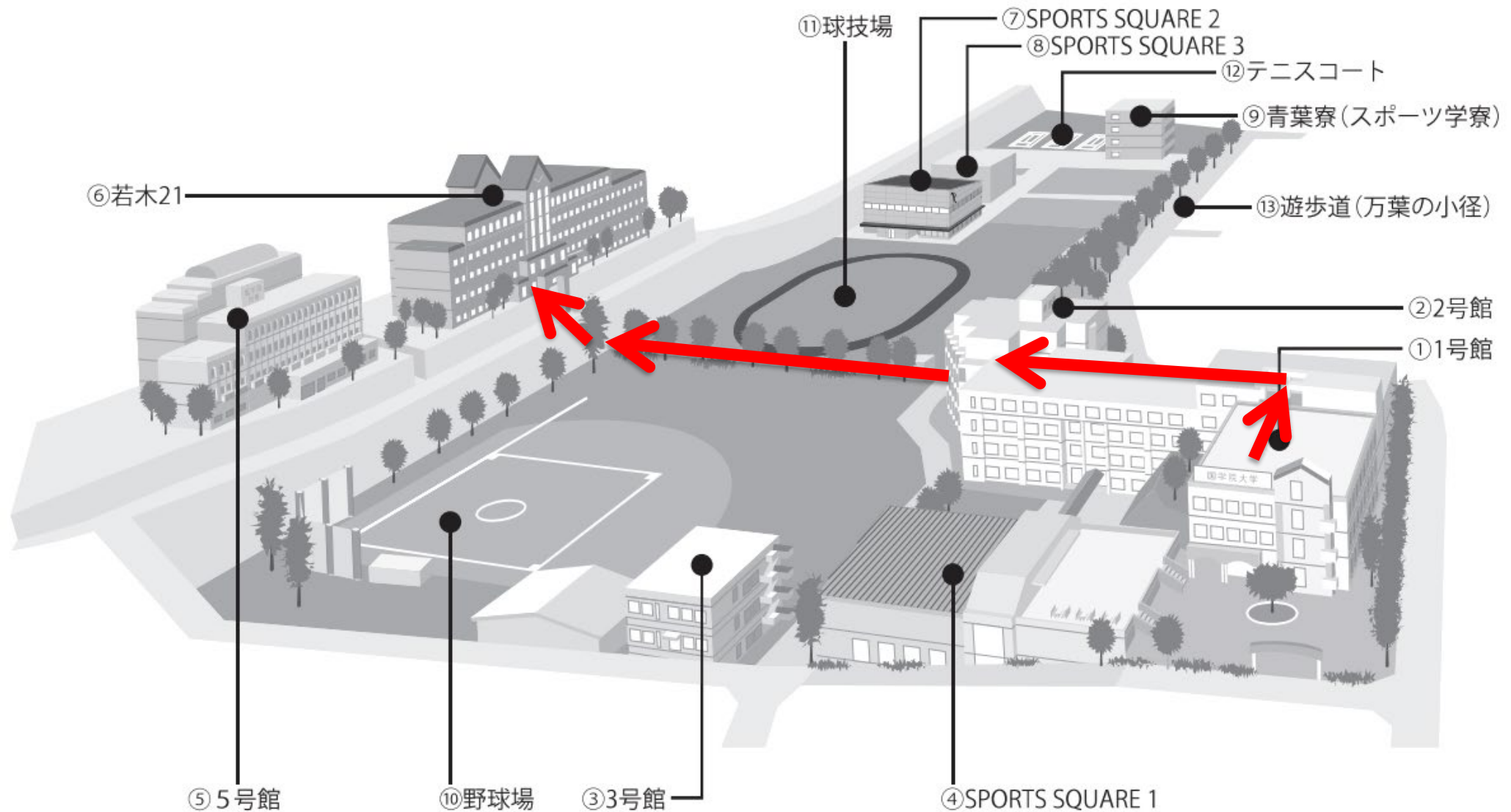
= 健康診断の前後に開催

2回目 2023年 4月 10日(月) 15:00～17:00

= 「まちづくりと観光」の後に開催

会場 若木21 多目的ホール（いずれの回も）

若木21への行き方



教員に相談する

前期「導入ゼミナール」では

1年後期以降の履修科目について考える機会を設けます。

まずは、自ら考えてみて

- 「導入ゼミナール」の担当教員（＝ルーム担当教員）に相談しましょう
- 各科目の担当教員に直接話を聞いてみましょう

明日以降の各種ガイダンス

●観光まちづくり学科●

日付	対象	行 事	時 間	実施キャンパス	教 室
4・2	全員	入学式	10:00～11:00	※グランドプリンスホテル新高輪	
4・4	全員	健康診断	女子 11:30～12:30 男子 15:30～16:30	たまプラーザ	1412教室
	希望者	学生相談室紹介ブース（カウンセラー待機）	9:30～16:30	たまプラーザ	エントランスホール
4・5	全員	図書館ガイダンス	13:00～13:30	たまプラーザ	1605教室
	全員	学部ガイダンス	14:00～16:00	たまプラーザ	1605教室
4・6	希望者	留学・国際交流ガイダンス	9:30～10:30	たまプラーザ	1605教室
	全員	就職に役立つキャリアガイダンス・資格講座説明会	10:40～12:00	たまプラーザ	1605教室
	希望者	博物館学芸員課程説明会	13:00～14:00	たまプラーザ	1605教室
	全員	キャンパスハラスメント防止ガイダンス	14:30～15:30	たまプラーザ	1410教室 1411教室
4・7	全員	大学生活トラブル防止ガイダンス	15:30～17:00	たまプラーザ	1605教室
配信	希望者	日本学生支援機構貸与奨学金および高等教育の修学支援新制度（給付奨学金・授業料等減免）新規採用	4月5日以降URL配信予定		
	希望者	日本学生支援機構貸与奨学金および高等教育の修学支援新制度（給付奨学金・授業料等減免）予約採用	4月3日以降URL配信予定		

連絡ツールレクチャー

CPガイダンスでK-SMAPYⅡのログイン作業を終えたら、以下の教室へ移動してください。

- 1402教室 iOS
- 1403教室 Android

混雑している場合、廊下の向かいの部屋で待ってください！

学部ガイダンス

観光まちづくり学部

観光まちづくり学部 2年生ガイダンス

11:30-	開始
11:35-11:55	学部カリキュラムと今後の履修計画について
11:55-12:00	学生生活について
12:00-12:10	観光まちづくり演習Ⅰについて
12:10-12:20	連絡ツールレクチャー
12:20-12:30	質疑応答
12:30	終了

学部カリキュラム 今後の履修計画

観光まちづくり学部

履修登録期間

1次〆切 4/6(木)12:50
2次〆切 4/13(木)12:50

項目/日程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	オリエンテーション期間 (4/1～)									第1週目							第2週目							第3週目						
	★入学式								★授業開始																					
希望優先方式事前登録(1次募集)	●							★																						
						抽選		発表																						
一般登録方式事前登録(1次募集)	●							★																						
						抽選		発表																						
希望優先&一般登録方式事前登録(2次募集)									●						★															
													抽選		発表															
一般登録	●									●																				
履修修正																														

※登録開始は全て12:00
※登録終了は全て12:50
※結果発表は全て20:00

履修登録に関わる重要な変更 年次履修単位制限(CAP制)

変更点

学期ごとの履修単位は制限されません

➡前期と後期でバランスよく学修できる履修計画を立てましょう

新

年 次	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
単位数	42 (前期 23 単位)	42	42	48

旧

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	23※1	23※1	23※1	23※1	23※1	23※1	24※1	24※1
	42※2		42		42		48	

履修登録に関わる重要な変更 英語科目の履修

「英語Ⅲ（●●）」「英語Ⅳ（●●）」「英語Ⅴ（●●）」が履修可能になります。
これまでは「英語ⅠⅡⅢⅣ」のみ履修可能だったため、学修の幅が広がりました。

<履修できるようになった科目例>

「英語Ⅲ（検定試験対策）」

「英語Ⅲ（英字新聞を読む）」

「英語Ⅲ（日本文化を英語で読む）」など

詳しくは、開講講座表を確認してください。

履修に関わる重要な変更 基礎日本語

「基礎日本語」の名称が「アカデミックリテラシーⅠ」に変更されます。
R5年度から「基礎日本語」ではなく、「アカデミックリテラシーⅠ」を履修してください。

<変更>

新名称 「アカデミックリテラシーⅠ」

旧名称 「基礎日本語」

「基礎日本語（●●）」といった名称の科目は、昨年度と同様に履修することができます。

履修計画を立てよう

興味・関心に応じて、卒業後の進路に向けて、
2年次にどのようなことを学ぶべきかを考え、履修計画を立てましょう！

履修計画を立てるために

- ・ 観光まちづくり学部のカリキュラムを確認する
- ・ カリキュラムツリーや履修モデルを確認する
- ・ 専門ゼミナールや卒業研究で取り組みたいことを考えてみる
- ・ 卒業要件の確認を確認する

履修計画を立てよう 履修モデル

- 履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生

p.18
- 履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生

p.19
- 履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生

p.20
- 履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生

p.21
- 履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生

p.22
- 履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生

p.23

訂正（P18）
履修モデルA内の1年共通教育科目「科学的思考法」は必修科目ではありません。

履修モデル

履修モデル

A

社会や生活の調査・分析から
観光まちづくりを学びたい学生

◆履修科目Ⅰ類(社会)、Ⅱ類(経済)、Ⅲ類(政策・計画)を積極的に履修します。

◆地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。

◆進路として、公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、()：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅱ・Ⅲ 国際社会の学び 情報科学入門 政治と社会参加(NPO)			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス 質的調査法	プロダクトデザイン(地域と形) 多量解析		
演習	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB		観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開・基礎	【Ⅰ】文化社会学 コミュニケーション論 【Ⅱ】地域経済論 博物館概論 【Ⅲ】公共政策概論 観光社会学概論 観光マーケティング	【Ⅰ】地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 【Ⅱ】都市経済論 民俗学概論 保全生態学概論 【Ⅲ】地域デザイン論 都市と地域の交通 【Ⅳ】観光社会学			
展開・発展		【Ⅰ】都市とメディアの社会学 【Ⅱ】ジェンダーの社会学 NPOと市民社会 観光社会学 文化人類学 【Ⅲ】地域文化創造論 風景計画論 文化行政・文化財行政概論 【Ⅳ】まちづくり論 高山山村論 住民参加と合意形成 地域復興論 リノベーション論 【Ⅴ】地域の観光情報メディア			
トピックス		ソーシャル・イノベーション			
関連	哲学・倫理学				
単位数	42単位	42単位	40単位		合計124単位

履修モデル

B

歴史・文化の保存と活用から
観光まちづくりを学びたい学生

◆履修科目Ⅱ類(資源)の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各履修から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。

◆歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランスよく身につけます。

◆進路として、歴史・文化の保存と活用に関連する博物館等の学芸員や職員、公務員、歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、()：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 留修学校の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ	英語Ⅱ・Ⅲ Japan Studies 地球環境と人間 比較文化論Ⅰ			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	プロダクトデザイン(地域と形)	質的調査法		
演習	導入ゼミナール 観光まちづくりA	観光まちづくり演習Ⅲ 観光まちづくり演習Ⅳ(4)	観光まちづくり演習Ⅴ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)	
展開・基礎	【Ⅰ】文化社会学 コミュニケーション論 【Ⅱ】地域経済論 博物館概論 【Ⅲ】公共政策概論 観光社会学概論 観光マーケティング	【Ⅰ】地域と環境の社会学 グローバルゼーション論 【Ⅱ】都市経済史 民俗学概論 【Ⅲ】地方自治概論 地域デザイン論 【Ⅳ】観光経済・計画論 観光社会学概論			
展開・発展		【Ⅰ】地域経済論 風景計画論 【Ⅱ】地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 【Ⅲ】行政概論 リノベーション論 【Ⅳ】観光社会学概論 観光まちづくり演習Ⅴ(4) 専門ゼミナール	【Ⅰ】ジェンダーの社会学 文化人類学 【Ⅱ】地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 【Ⅲ】行政概論 リノベーション論 【Ⅳ】観光社会学概論 観光まちづくり演習Ⅴ(4) 専門ゼミナール		
トピックス			文化芸術政策概論		
関連		博物館学芸員課程(17)			
単位数	42単位	42単位	40単位	40単位	

合計124単位(博物館学芸員課程の単位は含まない)

履修モデル

C

自然・環境の保護と利用から 観光まちづくりを学びたい学生

◆履修科目Ⅲ類(資源)の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各履修から積極的に履修し、関連科目も履修します。

◆自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランスよく身につけます。

◆進路として、自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、()：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅱ・Ⅲ Japan Studies 地球環境と人間		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法	地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 観光まちづくり演習Ⅳ(4) 専門ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅴ(4) 卒業研究(4)	
展開・基礎	【Ⅰ】文化社会学 コミュニケーション論 【Ⅱ】地域経済論 博物館概論 【Ⅲ】公共政策概論 観光社会学概論 観光マーケティング	【Ⅰ】地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 【Ⅱ】民俗学概論 保全生態学概論 【Ⅲ】国土・都市計画論 都市と地域の交通 【Ⅳ】観光社会学 観光マーケティング		
展開・発展		【Ⅰ】風景計画論 レクリエーション 計画論 【Ⅱ】行政概論 まちづくり論	【Ⅰ】都市とメディアの社会学 観光社会学 文化行政・文化財行政概論 自然・環境保護行政概論 【Ⅱ】高山山村論 住民参加と合意形成 地域復興論 【Ⅲ】地域の観光情報メディア 観光社会学 観光まちづくり演習Ⅴ(4) 専門ゼミナール	
トピックス			観光まちづくりシンポジウム	
関連	地理学概論	神社ネットワーク論Ⅰ		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

履修モデル

D

公共政策学

観光まちづくりを学びたい学生

◆履修科目目録(政策・計画)の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。

◆特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を履修に実務的なものも見方も兼ね備えています。

◆進路として、公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員や、出版、放送、広告の分野で活躍する人材を想定しています。

大学：必修科目、()：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 法学(日本憲法) 行政と市民生活 経済学入門	英語Ⅲ・Ⅳ 慶学院の学び 日本文化を知る		
	社会学入門 まちづくりと観光			
メソッド	社会学入門 統計分析の基礎	パブリックデザイン(地域と公共空間) 質的調査法	多変量解析	
	導入セミナー 卒業セミナーA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開	Ⅰ文化社会学 Ⅱ地域資源論 博物館論 Ⅲ公共政策概論 Ⅳ観光学概論 観光マーケティング	Ⅰ地域と環境の社会学 グローバルイノベーション論 Ⅱ都市建築史 Ⅲ地方自治概論 Ⅳ都市計画論 Ⅴ都市と地域の交通 Ⅵ観光政策・計画論		
		Ⅰ「ジゲンダー」の社会学 Ⅱ農業政策論 Ⅲ行政概論 Ⅳ山田村論	Ⅰコミュニケーション論 Ⅱ地域文化高度論 文化行政・文化財政概論 Ⅲまちづくり論 都市の全貌 住民参加と合意形成 地域減災論 交通計画 アートと地域振興 Ⅳ地域の観光情報メディア 世界の観光政策 出版概論	
発展				
トピックス			文化芸術政策論 観光まちづくりインテグレーション	
	関連	地域と都市の経済		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

E

空間づくり・計画づくりから 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、廣闊科目Ⅱ類(資源)とⅢ類(政策・計画)の科目、関連科目も履修します。
- ◆空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画と政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆2年次以降、トピックス科目の履修を奨励し実務的なもの見方を兼ね備えていきます。
- ◆道路として、宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野や、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、() 単位数を無視は2年単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門 科学的思考法	英語Ⅱ・Ⅲ 国際環境と人間 法と社会参加 日本の経済		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会学調査入門 統計分析の基礎 プログラミングと数学基礎	データサイエンス	パブリックデザイン (地域と公共空間) 地理空間情報分析	
演習	導きゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
専門・ 基礎	【1】コミュニケーション論 【2】地域資源論 【3】都市環境論 【4】公共政策論 【5】観光学概論 観光マーケティング	【1】グローバルセッション論 【2】都市歴史 【3】保全と都市概論 【4】地域デザイン論 【5】都市計画論 都市と地域の交通 【6】観光文化・社会論		
専門		【1】観光計画論 【2】観光行動論 【3】観光産業論	【1】都市とメディアの社会学 【2】レクリエーション計画論 自然・環境保護行政概論 世界遺産論 【3】まちづくり論 都市保全論 交通計画 地域開発論 【4】リノベーション論 【5】観光地経営論	
トピックス		地域ブランディング論	不動産投資論 観光危機管理論	
関連	地理学概論		神社ネットワーク論Ⅰ	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

F

観光関連産業での事業・経営から
観光まちづくりを学びたい学生

◆展開科目互換(交流・産業)の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。

◆1年次からトピックス科目を履修し、実務的なものを見方を兼ね備えています。2年次には関連科目も履修します。

◆道路として、宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、()：単位数無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年	
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 情報科学入門 経済経営学入門			
導入	社会学概論 まちづくりと観光				
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法			
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業演習(4)	
展開	[1]コミュニケーション論 [2]地域資源論 博物館概論 [3]公共政策概論 [4]観光社会学 観光マーケティング	[1]グローバル化セッション論 [2]保全生態系概論 [3]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [4]観光政策・計画論 観光事業論	[1]プロモーションセッション論 [2]安全生態系概論 [3]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [4]観光政策・計画論 観光事業論	[1]都市とメディアの社会学 観光社会学 [2]地域遺産論 地域文化創造論 [3]高山山村論 アートと地域振興 [4]の企画案 観光地経営論 観光夜マネジメント論 世界の観光政策 観光経済論 自然回復論	
展開・発展		[1]観光行動論 ホスピタリティ・マネジメント論 旅行産業論			
トピックス	経営学概論			運動・観光実践論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済 観光心理学			
単位数	42単位	42単位	40単位		

合計 124単位

専門ゼミナール・卒業研究

本学部では、学業の集大成として、全学生が**卒業研究**に取り組みます。卒業研究は、**3年次「専門ゼミナール」、4年次「卒業研究」（いずれも必修科目）**を履修して、一人の教員のもとで2年間をかけて、論文、計画、制作を完成させます。

「専門ゼミナール」「卒業研究」の担当教員は、2年次後期の専門ゼミナール所属選考（詳細は改めてお知らせ予定）を通じて決定します。

「専門ゼミナール」の履修に向けて、観光まちづくり学部の教員の研究分野や専門性を理解しておきましょう。自分の興味・関心のある分野の科目と教員に注目して、2年次の履修計画を立てましょう！

履修計画を立てよう 卒業要件

卒業に必要な 科目・単位数

科目区分		所要単位数	備考
導入科目		必修 2 科目 4 単位	
メソッド科目	必修	1 科目 2 単位	
	選択必修	2 科目 4 単位	
演習	必修	6 科目 18 単位	
	選択必修	1 科目 2 単位	
展開科目	基礎Ⅰ類（社会）	選択必修 2 科目 4 単位	左記の条件を満たした上で、 ・基礎Ⅰ～Ⅳ類で、13 科目 26 単位を修得すること。 ・展開科目全体で 22 科目 44 単位以上を修得すること。
	基礎Ⅱ類（資源）	必修 1 科目 2 単位	
		選択必修 2 科目 4 単位	
	基礎Ⅲ類（政策・計画）	必修 1 科目 2 単位	
		選択必修 2 科目 4 単位	
	基礎Ⅳ類（交流・産業）	必修 1 科目 2 単位	
		選択必修 2 科目 4 単位	
	発展Ⅰ～Ⅳ類	選択必修 6 科目 12 単位	
トピックス科目		選択	
関連科目		選択	
計		74 単位	

個人用パソコン（ノート型）の持参を推奨する科目

本学部では、授業中に個人用パソコンを利用する科目が多数あります。特に、以下の科目は、授業時に毎回個人用パソコンを持参してください。選択必修科目に指定された科目については、この条件に注意して、受講してください。なお、個人用パソコンを所有していない場合は、CP教室内のパソコンなどを利用してください。

前期

「観光まちづくり演習Ⅰ」
「基礎ゼミナールB」（担当教員による）

後期

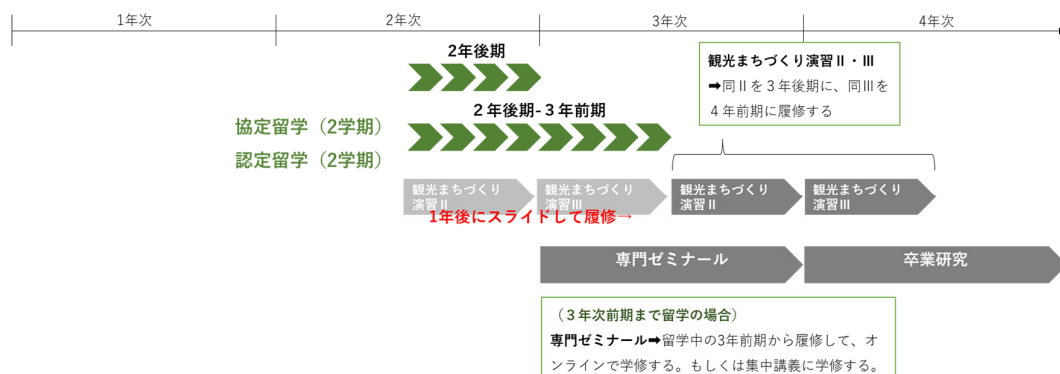
「観光まちづくり演習Ⅱ」
「データサイエンス」

留学を希望する場合

在学期間中に留学を希望する学生は、たま事務課を通じて、本学部教員へ連絡してください。
教員と相談の上で、本学部のカリキュラムの特性を踏まえた上で、留学と標準修業年数（４年間）で卒業することを両立する履修計画を作成してください。

本学部の方針

- 「観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ」は、順序性を保って履修することが望ましい。留学後、あるいは留学を前後して、必ず前述した順序で履修することを原則とする。



基礎ゼミナールAB

令和5年度前期の「基礎ゼミナールB」は指定科目です。昨年度の抽選結果で決定した履修者は既に登録されています。

令和5年度後期「基礎ゼミナールA」、令和6年度前期「基礎ゼミナールB」の履修を希望する場合、下記の説明会に参加してください。

R5年度基礎ゼミナール説明会

日時：2023年5月24日(水)・5限（16:35-18:05）

会場：1号館 1605教室

内容：各課題の概要や履修方法などについて説明

必修科目の再履修 専門教育科目

以下の科目の再履修をする学生は、すでに科目が自動登録されていますので、K-SMAPYⅡで曜日・時限を確認し、受講してください。

前期

「社会学概論」木曜 3 限
「まちづくりと観光」月曜 3 限
「社会調査法入門」木曜 4 限
「導入ゼミナール」木曜 2 限・金曜 2 限

後期

「地域資源論」月曜 3 限
「公共政策概論」火曜 2 限
「観光学概論」木曜 1 限

共通教育科目・必修科目

英語

「英語ⅠⅡⅢⅣ」は必修科目で、卒業までに全 8 単位を修得する必要があります。
1 年次に「英語ⅠⅡ」のいずれか、または両方を未修得の場合は、2 年次終了までに 8 単位を修得するよう、「英語（再）／英語（総合基礎）」を履修してください。

神道と文化

「神道と文化」は必修科目で、卒業までに修得する必要があります。
1 年次に未修得の場合は、再履修者向けの「神道と文化」（オンデマンド型授業）を履修してください。

共通教育科目 選択必修科目

第二外国語の再履修

第二外国語「●●語ⅠⅡ」は選択必修科目で、卒業までに同一言語で4単位を修得する必要があります。1年次に「●●語ⅠⅡ」のいずれか、または両方を未修得の場合は、2年次に必ず第二外国語「●●語ⅠⅡ」のいずれか、または両方を再履修してください。

<言語の変更>

2年次開始時の1回のみ、言語を変更することができます。

言語の変更を希望する学生は、1回目の履修登録期限までにたま事務課へ相談してください。

履修相談会

観光まちづくり学部の教員が履修計画の相談に乗ります

<履修相談会>

日時 2023年 4月 4日(火)13:00～15:00

2022年 4月10日(月)15:00～17:00

会場 若木21 1F 多目的ホール（いずれの回も）

國學院大學観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程

(目的)

第1条 國學院大學観光まちづくり学部における学部運営の点検評価及び改善に関する提言、並びに地域マネジメント研究センターの運営に関する提言、及び地域・社会への貢献を組織的に行うために観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会（以下「本委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 本委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 外部委員 3名以内
- (2) 学部長
- (3) 副学部長
- (4) 地域マネジメント研究センター長
- (5) 地域マネジメント研究センター副センター長
- (6) 教務担当教員
- (7) 入試担当教員
- (8) 事務課員

2 本委員会の委員長は、観光まちづくり学部長とする。

3 本委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 外部委員の選出にあたっては、教授会の承認を得るものとする。

5 本委員会の幹事は、副学部長とする。

6 本委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求めることができる。

(委員会)

第3条 本委員会は、委員長が招集し、議長となる。委員長に事故あるときは、予め指名された委員が議長となる。

2 本委員会は、原則として毎年度1回開催する。なお、委員長が必要と認めたときは臨時に委員会を招集することができる。

(活動)

第4条 本委員会は、第1条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 学部運営の点検・評価
- (2) 学部運営の改善に関する提言
- (3) 地域マネジメント研究センターの運営に関する助言
- (4) 地域、並びに外部機関との連携推進に関する助言・提言

(改廃)

第5条 この規程の改廃は、本委員会の議を経て、観光まちづくり学部教授会の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、令和5年3月10日から施行する。

令和5年度観光まちづくり学部教務委員会開催実績

教務委員氏名		回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
		開催日	4月12日(水)	4月26日(水)	5月24日(水)	6月 7日(水)	6月21日(水)	7月 5日(水)	7月19日(水)	9月20日(水)	10月4日(水)	11月8日(水)	11月22日(水)	12月13日(水)	1月10日(水)	1月24日(水)	2月7日(水)	2月21日(水)	3月4日(月)	3月27日(水)	出席回数
1	井門 隆夫	出席: 委員会出席 ×: 召集された が欠席 ―: 召集対象外	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
2	金 今善		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
3	児玉千絵		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
4	十代田朗		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	17回
5	清野 隆		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
6	潘 夢斐		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
7	堀木 美告		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
8	松本 貴文		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
9	楊 恵亘		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18回
開催時間			10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	
備考																					

「兼任・兼任講師打ち合わせ会」開催実績

令和5年度「兼任・兼任講師打ち合わせ会」を下記の通り開催した。

記

1. 開催日時 令和6年3月9日(土) 16:30より(16:00受付開始)
2. 会 場 國學院大學 たまプラーザキャンパス 1号館1106教室及び若木21
3. 内 容 16:30～ 本学部の方針及び近況説明、教務からのお願い事項、等
 17:00～ 1号館より若木21へ移動(校舎をご案内)
 17:30～ 懇談会(若木21 学生食堂ヒルトップ)
 19:00 終了

4. 出欠状況

	兼任・兼任講師名	科目名	ご出欠
1	岡部 友彦	ソーシャル・イノベーション	×
2	荒木 臣紀	博物館資料保存論	×
3	市村 真実	博物館教育論	○
4	片山 美由紀	観光心理学	×
5	上綱 久美子	観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)	○
6	杉本 興運	地理学概論	×
7	小堀 貴子	レクリエーション計画論	○
8	図司 直也	農山漁村論	×
9	佐野 敦子	ジェンダーの社会学	×
10	丹治 朋子	ホスピタリティ・マネジメント論	×
11	水野 由香里	経営学概論	×
12	橋本 俊哉	観光行動論	×
13	後藤 靖子	運輸・観光実践論	○
14	高松 正人	観光危機管理論	○
15	吉本 光宏	文化芸術政策論	○
16	渡邊 綱男	自然/環境保護行政概論	○
17	和良地 克茂	不動産投資論	○
18	鈴木 卓治	博物館情報・メディア論	○
19	半田 昌之	博物館経営論	○
20	後藤 知美	博物館展示論	×
21	坪原 紳二	コミュニティ論	○
22	東 徹	地域ブランディング論	○
23	本澤 絢子	まちづくり基礎(地域デザインを学ぶ) 渋谷開講	○
24	牧野 修也	質的調査法	○
25	岩松 真紀	生涯学習概論	×
26	安倍 宰	文化人類学	○
27	中村 大	多変量解析	×
28	福井 一喜	地域と都市の経済	○
29	稲垣 浩	行財政概論	×
30	中馬 祥子	NPOと市民社会	×
出席人数			16

令和 6 年 2 月 27 日

國學院大學 学長 殿

学部長： 西村 幸夫 (印省略)

令和5年度「FD 推進助成（甲）学部 FD 推進事業」事業報告書

標記のことに、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	観光まちづくり学部
事 業 名	「観光まちづくり演習」の充実に向けたスキルアップ事業
実務担当者名	松本 貴文
事 業 の 概 要	
以下、<u>本年度実施した推進事業の概要</u>について、申請時に提出した「学部 FD 推進事業」事業申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。 観光まちづくり学部のカリキュラムでは、2 年次前期から 3 年次前期までの計 1.5 年間をかけて継続的に地域の課題分析・解決に取り組む必修科目として、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置している。令和 5 年度は「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」が開講され、令和 6 年度には「観光まちづくり演習Ⅲ」も開講される。そこで、本年度の学部 FD 推進事業では、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」の運営体制の充実ならびに「観光まちづくり演習Ⅲ」の開講に向けたスキルアップ事業を実施した。本事業では具体的な目的として、(1) チームティーチングを円滑化するための担当教員間の相互理解促進、(2) フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域の理解促進、(3) 演習運営委員会の体制強化の 3 つを設定した。 上記の目的を達成するため、①～⑥の活動を下記のスケジュールで実施することとした。 ① 担当教員の相互理解に向けた研究会：毎月開催 ② フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域から外部講師を招いての研修会：4 回開催（5 月・7 月・10 月・1 月） ③ フィールドワーク対象地域や先進地域の視察：2 名（8 月） ④ 演習の運営体制強化を目的とした他大学から外部講師を招いての研修会：2 回開催（6 月・12 月開催） ⑤ アンケート調査の実施：②、④の各研修会実施後 ⑥ 最終報告書の作成（1 月） なお、研究会・研修会の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンラインでの参加環境を整えることにした。	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

☐十分達成できた（できる） ☒若干の計画修正の上達成可 ☐大幅な修正の上達成可 ☐達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

☐適切であった ☒概ね適切であった ☐あまり適切でなかった ☐適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

☐十分な点検・評価・共有ができた ☒一定の点検・評価・共有ができた

☐点検・評価・共有のどれかが不十分であった ☐点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、**本年度実施した推進事業の結果**について、申請時に提出した「学部 FD 推進事業」事業申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

前述の①～⑥の活動の実施状況は下記の通りであった。

- ① 担当教員の相互理解に向けた研究会：6 回開催…5 月 17 日（30 人）、5 月 31 日（28 人）、6 月 14 日（29 人）、7 月 12 日（30 人）、1 月 17 日（30 人）、2 月 21 日（30 人）
- ② 地域から外部講師を招いての研修会：1 回開催…1 月 24 日（23 人）
- ③ 先進地域の視察：9 月 30 日～10 月 1 日に日光市エクスカーションを実施（26 人）
- ④ 他大学から講師を招いての研修会：1 回開催…7 月 26 日（25 人）
- ⑤ アンケート調査の実施：2 回実施…7 月 26 日～8 月 8 日（11 人）、1 月 24 日～2 月 13 日（18 人）
- ⑥ 最終報告書の作成：2 月に実施

* 括弧内は参加人数。ただし、アンケート調査は回答者数。

以上のように、①・②・④については当初の予定よりも実施回数が少なくなった。しかし、③については当初予定していた少人数による視察から、学部教職員全体に参加を募る形式でのエクスカーションに充実させた。他の活動が計画通り実施できなかったのも、エクスカーションの準備に時間を要したためである。エクスカーションでは、日光市等の協力を得て市内各所を視察したほか、「観光まちづくり演習」の運営体制をはじめとする学部運営に関するワークショップも開催した。その結果、教員間の相互理解、地域理解、演習運営体制の強化という本事業の 3 つの目的の達成に対し大きな成果が得られた。これらのことを踏まえ、「若干の計画修正の上達成可」と評価した。

事業内容については、上記の通り一部変更を行ったものの、目的と明確に関連付けられており「概ね適切であった」と評価した。なお、研修会後に実施したアンケート調査では、いずれの研修会についてもすべての回答者が研修会のテーマは「適切だった」と回答した。また、研修会の内容が職能改善・授業改善に参考になったかどうかについても、地域から外部講師を招いての研修会では「参考になった」が 82%、「どちらかといえば参考になった」が 18%、他大学から講師を招いての研修会では「参考になった」が 89%、「どちらかといえば参考になった」が 11%となっており、全ての回答者が肯定的に評価している。

事業の点検・評価に関して、研修会とエクスカーションの進捗状況については学部教務委員会及び教授会で報告を行った。また、研修会については実施後にアンケート調査を実施した。成果の共有に関しては、相互理解に向けた研究会の資料を学部教員に共有した。また、日光市エクスカーションの成果については、教授会にて詳細な報告がなされた。しかし、研修会については、当日参加できなかった教員に対し十分な情報共有を図ることができなかった。以上の理由から、「一定の点検・評価・共有ができた」と評価した。

今 後 の 展 望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部教授法や授業改善に効果的であるか？

☒ とても効果的である ☐ 効果的である ☐ あまり効果的でない ☐ 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である／ないと判断した理由を、これまでの学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

前述の通り、研修会については実施後のアンケートですべての回答者が、職能改善・授業改善に「参考になった」または「どちらかといえば参考になった」と回答している。また、相互理解に向けた研究会や日光市エクスカッションについても、多くの参加者から好意的な評価を得ることができた。したがって、「とても効果的である」と評価した。とりわけ、急遽予定を変更して実施した日光市エクスカッションは、本事業の目的であった教員間の相互理解の促進、地域理解、演習運営体制の強化の全てに対して非常に効果的であった。

なお、本事業では、日光市エクスカッションをはじめ、研修会の外部講師を高山市の飛騨高山大学連携センター及び香取市の NPO 法人佐原アカデミアから招聘するなど、実施の過程で本学が連携協定を結んでいる自治体や団体から協力を得た。「観光まちづくり演習」に限らず、観光まちづくり学部のカリキュラムでは、受け入れ地域との連携が欠かせない科目も多い。したがって、日光市や高山市、佐原アカデミアの取り組みについて理解を深め関係強化につながった点も、本事業の重要な成果の1つといえる。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

☐ とても効果的である ☐ 効果的である ☒ あまり効果的でない ☐ 効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である(ない)と判断した理由を、これまでの当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

教員間の相互理解の促進は、いずれの学部学科においても授業改善、職能改善一定の効果を持つと考えられる。また、研修会やエクスカッションを通して構築された地域や団体との関係についても、全学部学科における授業改善に役立てることが可能かもしれない。

とはいえ、「観光まちづくり演習」は複数の教員がチームティーチングを行うなど、独自性の強い科目である。本事業は「観光まちづくり演習」の充実を目的としており、実際のフィールドワークと近い形でエクスカッションを実施する等、その特性に配慮した内容であった。したがって、本事業で得た知見を、学部学科を超えた学士課程教育全体の授業改善・職能改善に応用する場合、その範囲は限られたものとなると予想される。したがって、「あまり効果的ではない」と評価した。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

上期については、①消耗品費、②研修会に関連する図書資料費、③研修会講師の旅費、④研修会講師の謝金（手数料）の執行を予定していた。この内、研修会がオンラインのみでの開催となったため、①消耗品費（研修会の様子を記録するためのSDカードを購入予定）及び③研修会講師の旅費については支出する必要がなくなった。また、②図書資料費については、実務担当者の整理作業が遅れ執行できなかった。したがって、④研修会講師の謝金（手数料）のみの執行となった。なお、④についても研修会を予定回数実施できなかったため、執行できたのは1回分に留まった。

下期については、②研修会に関連する図書資料費、③研修会講師及び視察の旅費、④研修会講師の謝金（手数料）について執行を予定していた。②研修会に関連する図書資料費については、上期に執行できなかった第1回研修会の関連図書と、下期に実施した第2回の研修会に関連する図書を購入した。③研修会講師及び視察の旅費については、第2回研修会も第1回に引き続きオンラインのみでの開催となったため講師の旅費は不要となった。視察旅費として、エクスカーションの際の大型バス借り上げ代を支出した。また、旅費の一部を費目変更し、エクスカーションの際にワークショップ等を行うための会議室賃借料に充てた。④研修会講師の謝金については2名分を執行した。また、本年度の事業に関する情報を記録するため、上期に執行できなかった①消耗品費から外付けHDDを購入した。

研修会を予定していた回数開催できなかったため、全体の執行率は55%と低くなってしまった。研修会の開催については、講師との日程調整など時間を要することから年度内に実施できる回数に限界があることを痛感している。今後の事業計画及び経費の執行計画作成の際には、この反省を生かしていく必要がある。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

本事業報告書の項目に即しつつ、「事業の結果」を中心に報告を行う予定である。とりわけ、2回開催した研修会及び日光市エクスカーションの成果について、重点的に説明を行う。具体的には、以下のような項目を予定している。

- ① 事業の概要（「観光まちづくり演習」の概要、本事業の目的・内容・計画）
- ② 本事業の成果（研修会とエクスカーションの成果、得られた知見の整理）
- ③ 今後の展望（「観光まちづくり演習」における知見の応用、学部学科を超えた波及効果）
- ④ 経費の執行
- ⑤ まとめ

観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

國學院大學観光まちづくり学部は、本学で蓄積されてきた日本と日本文化に関する学知を基盤に、「観光」を切り口としながら持続可能な地域を実現するための方法論を「観光まちづくり」という視点から開拓するとともに、その実践を担う人材を養成することを目的として令和4年4月に設置された。

学部の目的を達成するために、以下の取り組みを行った。

1. 入学者の確保

観光まちづくり学部ホームページを立ち上げ、学部の理念・目的、カリキュラム、専任教員等の情報を公開した。また、本学専任職員によって編成している入学アドバイザーが担当高校を訪問し、上記内容について説明を行っている。入学試験は、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りの内容で実施し、入学定員300名に対して令和5年度は360名が、令和6年度は313名が入学した。

令和5年度に入学定員を超えた主な要因は、合格者の歩留率が想定以上に高かったためと考えているが、令和6年度は前年度の歩留率の実績から、適正な入学者数の確保が行えたと考えている。次年度以降については、入学志願者及び入学者の確保にあたり、引き続き適正な定員管理の徹底に努めていくとともに、よりレベルの高い入学志願者が期待できるよう、学部運営の充実に向けて取り組んでいきたい。

2. 教員組織

令和5年度に、当初予定されていた全ての専任教員30名が着任し、教員組織は計画通り完成した。また、助手が令和4年度に3名、令和5年度に3名が着任した。

3. オリエンテーション

新入生に対して、オンデマンド動画を通じて「履修ガイダンス」を実施し、「大学について」「大学の授業の仕組み」「各学科時間割の作成」「時間割の登録」「授業への出席」等について説明を行った。また、4月1日には教室にて「専門科目ガイダンス」を実施し、履修ガイダンスの視聴の確認を行うとともに「専門科目の構成」や「大学で求められる力」について説明を行った。4月3日には学部ガイダンスを実施し、専任教員が学部の目的や教育内容に関する説明を行い、4月4日には履修登録に不安を抱える学生を対象として履修に関する個別相談会も実施した。上記のほか、①大学生活ガイダンス、②大学生活トラブル防止ガイダンス、③キャンパスハラスメント防止研修、④図書館ガイダンスを実施し、希望者には①就職に役立つキャリアガイダンス、②留学・国際交流ガイダンスも併せて実施した。

また、2年生に対して、4月3日に「専門科目ガイダンス」と「演習の集い」を開催し、2年次で取り組む演習ⅠⅡの説明や専門ゼミナールの選考方法等の説明を行った。

4. 入学前教育

学校推薦型入試及び総合選抜型入試の入学に対して、課題図書（39 冊）を指定し、その中から任意に 2 冊を選ばせ、読書レポートを提出させた。その他、小論文講座や TOEIC オンライン講座（いずれも有料）も用意し、一般選抜による入学との学力差が生じないよう配慮した。

5. 初年次教育と学修支援

観光まちづくり学部では、1 年次前期に講義科目「まちづくりと観光」「社会学概論」「社会調査法入門」、及び演習科目「導入ゼミナール」を必修科目として配置している。「まちづくりと観光」「社会学概論」は今後 4 年間学修していく観光まちづくりに関する導入科目、「社会調査法入門」は社会調査手法を学ぶ科目であり、これら 3 つの科目により学部の学びの基礎を築く。演習科目「導入ゼミナール」は、学生を 15 名前後の小グループに分け、それぞれに専任教員 1 名を配置し、アカデミックリテラシーを修得させる。また、「導入ゼミナール」の各グループは、クラスルームの機能も有しており、担当教員がきめ細やかな学修支援を行い、後期中等教育から高等教育への接続を円滑にすることを企図している。

学部開設 3 年目となる令和 6 年度の入学についても、同様に「導入ゼミナール」とクラスルームによる学修支援を行っている。クラスルームは 2 年次終了まで継続されており、担当の専任教員が昨年度と同じ学生 15 名前後の学修支援を行っている。

6. 施設・設備の整備状況

観光まちづくり学部に関する施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りに整備を行った。

7. 地域マネジメント研究センター

「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通り、令和 4 年度に大学と地域との連携強化を図る「地域マネジメント研究センター」が設置された。地域との共同研究の推進、観光まちづくりライブラリーの運営、包括連携協定の締結、講演会・シンポジウムの開催などを定期的に開催し、機関誌「観光まちづくり」も毎年 1 号ずつ発行している。

8. 教育内容等の改善を図るための組織的な取り組み

前々項「教員の資質の維持向上の方策（FD・SD 活動含む）」の通り、観光まちづくり学部 FD 委員会、観光まちづくり演習運営委員会、観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会の設置、学生による授業評価アンケートの実施などを実施している。

以上のことから設置の趣旨・目的に照らして、令和 6 年 5 月 1 日時点としては当初の計画通りに実施できているものと考えている。